

中城村観光振興計画 (素案)

〔本 編〕

平成30年2月

中 城 村

目次

第1章 「中城村観光振興計画」策定の趣旨

1. 計画策定の趣旨・位置付け・計画期間	2
1.1 計画の趣旨	2
1.2 位置付け	2
1.3 計画の期間	2
2. 計画の構成	3

第2章 中城村の観光を取り巻く現状と課題

1. 中城村の観光を取り巻く環境【外部環境】	5
1.1 国の観光の現状と動向	5
(1) 国の観光施策	5
(2) 国の観光を取り巻く環境	6
1.2 沖縄県の観光の現状と動向	8
(1) 沖縄県の観光施策	8
(2) 沖縄県の観光を取り巻く環境	11
2. 中城村における観光の現状【内部環境】	15
2.1 立地条件等	15
(1) 位置・交通	15
(2) 土地利用	17
(3) 歴史	18
(4) 人口・世帯	20
(5) 産業	21
(6) 農業・漁業・商業・工業	22
2.2 地域資源とこれまでの観光振興の取り組み	23
(1) 中城村来訪者数	23
(2) 地域資源	24
(3) これまでの観光振興の取り組み	31
2.3 住民、観光客等の実態調査から見る観光の現状	41
(1) 住民アンケート	41
(2) 中学生アンケート	46
(3) 観光客アンケート	50

3. 中城村の観光振興の課題	60
3.1 観光振興に係る現状分析(SWOT分析)	60
(1) SWOT分析とは	60
(2) 強み・弱み・機会・脅威とは	60
(3) SWOT分析(案)	60
3.2 観光振興の課題整理(クロスSWOT分析)	62
(1) クロスSWOT分析とは	62
(2) クロスの考え方	62
(3) クロスSWOT分析(案)	62

第3章 中城村観光振興の基本的な方向性

1. これからの中城村の観光(目標像(案))	67
2. 中城村の観光振興の基本方針・成果指標	69
2.1 基本方針	69
2.2 成果指標	72
3. 観光振興に向けた基本施策と展開	74
3.1 基本施策の体系	74
3.2 基本施策の展開	75
基本方針1 官民協働による賑わいづくり	75
基本方針2 観光プロモーションの充実	76
基本方針3 地域資源を活かした魅力ある交流のまちづくり	78
基本方針4 受入体制整備とおもてなしの充実	79

第4章 計画の推進体制(計画の実施と進捗管理)

1. 観光振興に向けた各主体の役割	
2. 「中城村観光振興計画」の推進体制・進捗管理	
2.1 推進体制	
2.2 進捗管理	

検討中

資料編

1. 「中城村観光振興計画策定委員会」設置要綱	
1.1 設置要綱	
1.2 委員名簿	
2. 「中城村観光振興計画」策定の経緯	

検討中

第1章 「中城村観光振興計画」策定の趣旨

1. 計画策定の趣旨・位置付け・計画期間

1.1 計画策定の趣旨

- 中城村では、中城村第四次総合計画に基づき、恵まれた環境特性や既存施設等を活かした観光振興を推し進めるための施策を展開してきました。一方で、多くの観光客が沖縄自動車道を利用して移動するなど、通過型の観光が長年の課題となっています。
- 現在、沖縄県の観光客数は右肩上がり、2010(平成33)年に目標としていた1,000万人を大きく上回るペースで増加しています。さらに那覇空港の国際線ターミナルの再編整備をはじめ、中城村周辺でも沖縄都市モノレールの延伸、中城湾港マリンタウン計画、大型クルーズ船の寄港、大型MICE施設整備など、訪日外国人も含め、中城村に来訪する観光客の増加が予想されます。
- 中城村では、世界遺産中城城跡を中心に人々の暮らし、歴史、自然が形成され守られてきました。これらの地域資源を掘り起し、魅力を高めて活用する取り組みを継続し、中城村ならではの観光として育て、現在の通過型観光から滞在型観光への転換を図るなど、魅力あるまちづくりを推進するため、中城村における観光の現状と課題を踏まえて観光振興の方向性を明らかにし、実効性のある具体的施策を掲げた観光戦略となる「中城村観光振興計画」を策定します。

1.2 位置付け

- 本計画は、上位計画となる「中城村第四次総合計画(後期基本計画：2017(平成29)年3月)」における観光関連施策の個別計画と位置付け、国の「観光立国推進基本計画(2017(平成29)年3月28日閣議決定)」、沖縄県の「第5次沖縄県観光振興基本計画改定版(2017(平成29)年3月改定)」等を踏まえて策定します。

1.3 計画期間

- 本計画は、2018(平成30)年度から2027(平成39)年度までの10年間を計画期間とします。中間見直しについては、各種計画の改定状況、観光を取り巻く環境の変化、社会情勢の変化等を踏まえて検討します。

表 各種計画の計画期間

	各種計画	計画期間
国	観光立国推進基本計画	2017(平成29)～2020(平成32)年度
沖縄県	第5次沖縄県観光振興基本計画改定版	2012(平成24)～2021(平成33)年度
中城村	中城村第四次総合計画後期基本計画	2017(平成29)～2021(平成33)年度
	中城村観光振興計画	2018(平成30)～2027(平成39)年度

2. 計画の構成

■ 中城村観光振興計画の構成を以下に示します。

第1章 中城村観光振興計画策定の趣旨

計画策定の趣旨・位置付け・計画期間、計画の構成について整理します。



第2章 観光を取り巻く現状と課題

【1. 外部要因】 国・沖縄県の観光の現状と動向

◇国と沖縄県における、観光施策・数値目標、観光を取り巻く環境(統計データ)について整理します。

【2. 内部要因】 中城村の観光の現状と動向

◇社会環境、自然環境、観光施策、観光を取り巻く環境(統計データ、地域資源、上位・関連計画、村民・中学生アンケート、観光客アンケート)について整理します。

【3. 課題整理】 中城村観光振興の課題

◇観光の現状を踏まえて、「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」の要素をSWOT分析により抽出します。

◇抽出した要素を用いて、クロスSWOT分析を行い、観光振興の課題を整理します。



第3章 中城村観光振興の基本的な方向性

観光振興の課題を踏まえ、基本理念、基本方針、数値目標を設定します。

基本理念: 観光振興により目指す村の姿

基本方針: 基本理念の実現を支える柱(それぞれの取り組みの目的・方向性)

数値目標: 基本方針の目的達成を測る指標

基本施策: 基本方針を達成するための戦略

展開施策: 基本施策を掘り下げ、場所や目的によって細分化した戦略



第4章 計画の推進体制

観光振興に向けた各主体の役割、推進体制、進行管理を整理します。

第2章 中城村の観光を取り巻く現状と課題

1. 中城村の観光を取り巻く環境【外部環境】

1.1 国の観光の現状と動向

(1) 国の観光施策

世界が訪れたいくなる日本を目指し、国全体を挙げて観光立国を推進しています。

- わが国は、「観光」を21世紀における重要な施策の柱と位置付け、「旧観光基本法」(1963(昭和38)年)を全面改正し、「観光立国推進基本計画」を2007(平成19)年1月から施行しました。
- 観光立国を実現するための「新たな観光立国推進基本計画」(2017(平成29)年3月28日閣議決定)では、拡大する世界の観光需要を取り込み、世界が訪れたいくなる「観光先進国・日本」への飛躍を基本計画の策定の方向性として掲げ、次の主な施策を定めています。
 - ①国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成
 - ②観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成
 - ③国際観光の振興
 - ④観光旅行の促進のための環境の整備

観光は、わが国の成長戦略と地方創生の柱とし、大きな目標を掲げています。

- 「明日の日本を支える観光ビジョン - 世界が訪れたいくなる日本へ - 」(2016(平成28)年3月)では、“観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である”との認識の下、以下の3つの視点を柱とし、10の改革をとりまとめています。
- 東京オリンピック開催年の2020(平成32)年における目標として、訪日外国人旅行者数を年間4,000万人、消費額を8兆円等と掲げています。

視点1 「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」	視点2 「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」	視点3 「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」
<ul style="list-style-type: none"> ■「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放 <ul style="list-style-type: none"> ・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放 ■「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ <ul style="list-style-type: none"> ・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化 ■「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ <ul style="list-style-type: none"> ・2020年を目標に、全国5箇所の公園について民営の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善 ■おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ <ul style="list-style-type: none"> ・2020年を目標に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定 	<ul style="list-style-type: none"> ■古い規制を見直し、生産性を大ににする観光産業へ <ul style="list-style-type: none"> ・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トアIの経営人材育成、民泊の整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援 ■あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現 <ul style="list-style-type: none"> ・欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにした「DTC」の戦略的な「緩和」を実施 ・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善 ・首都圏におけるビジネスの受入環境改善 ■疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成 ・観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現 	<ul style="list-style-type: none"> ■ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現 <ul style="list-style-type: none"> ・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変 ・ストレスな道徳・交通利用環境を実現 ・様々な観光を実現 ■「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現 <ul style="list-style-type: none"> ・「シャトル・レール」を訪日後でも購入可能化 ・新幹線開業やJALの航空運送等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現 ■「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現 <ul style="list-style-type: none"> ・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上 ・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化

訪日外国人旅行者数	2020年： 4,000万人 (2015年の約2倍)	2030年： 6,000万人 (2015年の約3倍)
訪日外国人旅行消費額	2020年： 8兆円 (2015年の2倍超)	2030年： 15兆円 (2015年の4倍超)
地方部での外国人延べ宿泊者数	2020年： 7,000万人泊 (2015年の3倍弱)	2030年： 1億3,000万人泊 (2015年の5倍超)
外国人リピーター数	2020年： 2,400万人 (2015年の約2倍)	2030年： 3,600万人 (2015年の約3倍)
日本人国内旅行消費額	2020年： 21兆円 (最近5年間の平均から約5%増)	2030年： 22兆円 (最近5年間の平均から約10%増)

出典：「明日の日本を支える観光ビジョン」概要(2016(平成28)年3月)

(2) 国の観光を取り巻く環境

年間訪日外国人旅行者数は増加傾向で、4年連続で過去最高を更新しました。

- 2016(平成28)年の訪日外国人旅行者数は、対前年比21.8%増の2,404万人で、4年連続で過去最高を更新しました。また、訪日外国人旅行者数は前年に引き続き、出国日本人数(1,712万人)を上回りました。

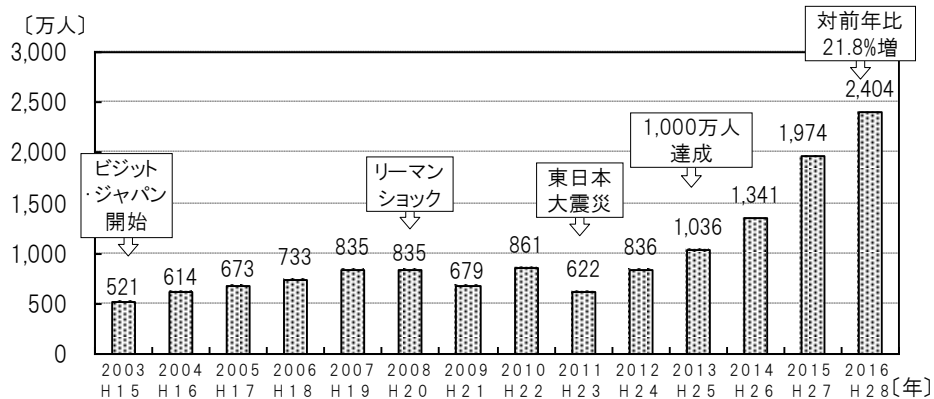


図 訪日外国人旅行者数の推移

資料：「平成29年版観光白書」観光庁(2017(平成29)年5月)

日本人国内延べ旅行者数は若干増加。日帰りと宿泊旅行の割合はほぼ半数です。

- 日本人国内延べ旅行者数は、対前年比6.0%増の6億4千万人で、若干増加しています。
- 日帰り旅行と宿泊旅行の割合は、概ね半数ずつで、2010(平成22)年以降ほとんど変化していません。

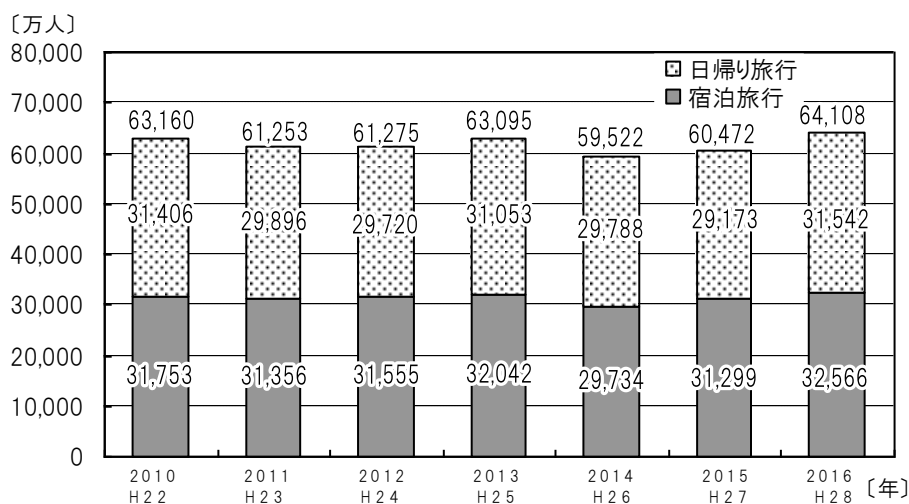


図 日本人国内延べ旅行者数の推移

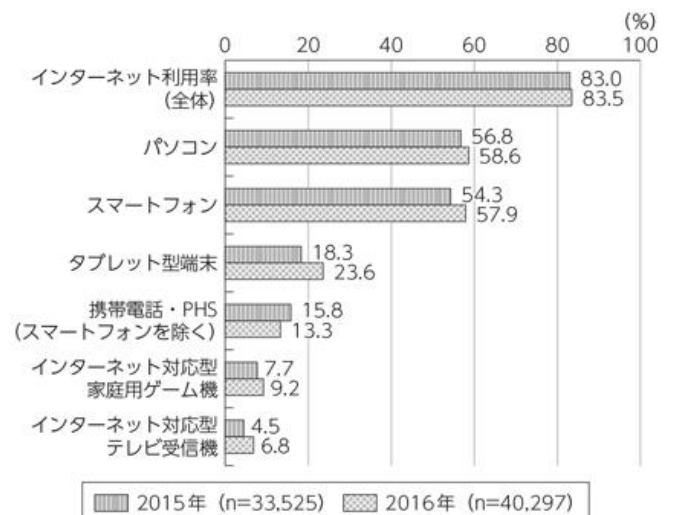
資料：「旅行・観光消費動向調査(平成28年年間値(確報))」観光庁(2017(平成29)年4月)

個人旅行の増加。国民の価値観が変化し、旅行目的も多様化しています。

- 国内旅行は、近年横ばい傾向で推移していますが、「個人旅行」の割合は徐々に増え近年では約80%を占めています。また、個人旅行者の需要・関心が多様化しており、地域のことを深く知りたい、交流したいというニーズも出てきています。
- このため、旅行者を受け入れる地域においては、さまざまな地域資源をより多くの人々に知ってもらうための取り組みを推進する「観光まちづくり」が重要視されています。

高度情報化社会の到来。個人による情報発信が急速に増加しています。

- わが国におけるインターネット利用者数は年々増加し、2016(平成28)年度の普及率は83.5%となっています。
- 端末別のインターネット利用状況は、「パソコン」が58.6%と最も高く、次いで「スマートフォン」(57.9%)、「タブレット型端末」(23.6%)となっており、いつでもどこでも必要な情報を検索し、入手することが可能となりました。
- 特に、スマートフォンやタブレットの普及によって、文字だけではなく画像や動画の配信・受信が行えるようになり、Twitter、Facebook、LINE、Instagramなど個人による情報発信量が急速に増加していることから、観光まちづくりのプロモーションにはインターネットの戦略的な活用が欠かせないものとなっています。



※当該端末を用いて過去1年間にインターネットを利用したことのある人の比率

図 インターネット利用端末の種類

資料：「2017(平成29)年版情報通信白書」総務省(2017(平成29)年7月)

1.2 沖縄県の観光の現状と動向

(1) 沖縄県の観光施策

“世界水準の観光リゾート地”の実現に向けて、観光施策を展開しています。

- 沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置づけ、1976(昭和51)年度から「観光振興基本計画」を策定し基盤整備等を進めてきました。
- 「第5次沖縄県観光振興基本計画改定版」(2017(平成29)年3月)は、沖縄県観光振興条例における観光の意義と沖縄県の特性を踏まえ、沖縄全体の今後の目指すべき姿を示した「沖縄21世紀ビジョン」で掲げる“世界水準の観光リゾート地”の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築するための施策を展開しています。

《沖縄県観光の将来像》

”世界水準の観光リゾート地”

《将来像実現の核となる3要素》

①島の海・森・生物多様性(自然)、②島の歴史・文化芸能(文化)、③島の安全・安心・快適性(人・環境)

《2021(平成33)年度達成目標》

①観光収入:1.1兆円、②観光客一人当たり県内消費額:9万3千円、③平均滞在日数:4.5日間
④人泊数:4,200万人泊(国内客3,200万人泊)、⑤入域観光客数:1,200万人(うち国外客400万人)

《施策の基本方向》

①多様で魅力ある観光体験の提供、②基盤となる旅行環境の整備、③観光産業の安定性確保
④効果的なマーケティング、⑤推進体制の再構築

資料:「第5次沖縄県観光振興基本計画改定版」沖縄県(2017(平成29)年3月)

毎年の数値目標とその達成に向け、具体的な行動計画を策定しています。

- 長期計画である「沖縄21世紀ビジョン基本計画(改定計画)」(2017(平成29)年5月)、「第5次沖縄県観光振興基本計画決定版」(2017(平成29)年3月)及び中長期の取り組みを示した「沖縄観光推進ロードマップ」(2015(平成27)年3月)を踏まえ、単年度ごとの数値目標とその達成に向けた施策展開を盛り込んだ具体的な行動計画である「ビジットおきなわ計画」(2007(平成19)年度から毎年度作成)を策定し、取り組みを推進しています。

《2017(平成29)年度の数値目標》

①観光収入:7,500億円、②観光客一人当たり県内消費額:79,000円、③平均滞在日数:3.88日間
④人泊数:2,734万人泊、⑤入域観光客数:950万人(うち国外客265万人)

《2017(平成29)年度の主な施策展開》

- ◆ **誘客戦略**: (1)国内外におけるブランド戦略の展開 (2)既存需要の拡大及び確保 (3)新規需要の開拓 (4)航空路線の拡充・クルーズ航路の獲得 など
- ◆ **受入戦略**: (1)観光人材の拡充 (2)2次交通機能の拡充 (3)宿泊機能の拡充 (4)観光体験等の拡充(着地型観光・離島観光の推進) (5)持続可能な観光リゾート地の形成 など

資料:「平成29年度ビジットおきなわ計画」沖縄県(2017(平成29)年7月)

中部圏域の基本方針は、多様な地域資源や産業基盤を活用した地域づくりです。

- 「沖縄21世紀ビジョン基本計画〔改定計画〕」（2017(平成29)年5月)の「圏域別展開(中部圏域)」では、中部圏域がもつ多様な地域資源や産業基盤を活用した地域づくり、鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入に向けた取り組み、都市機能の計画的な配置や都市基盤の整備などを展開の基本方向としています。

《沖縄21世紀ビジョン基本計画(改定計画) 圏域別展開〔中部圏域〕》

※下記の◇の内容は、展開の基本方針の各内容であり、本村の観光振興に関連すると考えられる記載を抜粋しました。

1. 個性豊かで魅力あふれる基幹都市圏の形成

①人的・物的交流拠点の機能強化

◇中城湾港については、東海岸地域の活性化を図る産業支援港湾として、新港地区において流通加工港湾の整備を推進するとともに、定期船就航の実現等により物流拠点の形成を推進します。また、東ふ頭の整備及びリサイクルポートとして静脈物流ネットワークの形成を図るとともに、泡瀬地区の東部海浜開発事業及び西原与那原地区のマリントウンプロジェクトについても環境保全に十分配慮し、引き続き整備を推進します。さらに、クルーズ船の受入体制の強化を図ります。

◇沖縄都市モノレールを沖縄自動車道(西原入口)まで延長、結節することで、高速道路との連携を図るとともに鉄軌道を含む新たな公共交通システムと地域を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けた取組を推進します。

②中部都市圏の機能高度化

③環境共生型社会の構築

◇中部圏域においては、戦後、急速な都市化の進展、海域における埋立事業等により、自然環境が徐々に失われていることから、今後の人口増加や大規模な駐留軍用地の返還を見据え、森林、河川、干潟、藻場などの陸域・水辺環境の保全・再生に取り組みます。

2. 圏域の特色を生かした産業の振興

①観光リゾート産業の振興

◇東海岸地域では、中城湾港泡瀬地区において、環境保全に十分配慮した東部海浜開発事業を推進することにより、海洋レクリエーション機能の整備及びスポーツコンベンション拠点の形成を図ります。また、うるま市から北部圏域の金武町、宜野座村に至る環金武湾地域においては、金武湾の特色を生かした海洋レジャーなどの取組を促進します。

◇また、中城湾港マリントウン地区に建設を予定している大型MICE施設については、着実に整備を進めるとともに、地域との連携による効果的な施設運営を行います。さらに、沖縄本島東海岸における観光地形成を強化し、宿泊施設、商業施設等の立地促進、交通アクセスの改善等に取り組みます。あわせて、大型国際見本市・展示会をはじめとする各種MICEの地元自治体と連携した誘致体制を強化するとともに、地元事業者等によるユニークベニュー開発などMICE関連ビジネスの振興に取り組みます。

◇世界遺産の所在地(うるま市、中城村、北中城村、読谷村)を中心として、他圏域との連携のもと、琉球王国のグスク及び関連遺産群や自然及び文化を生かした体験・滞在型観光等、地域産業と密接に連携した新たな観光スタイルの創出

を図るとともに、歴史的景観の保全に配慮しつつ、当該景観に調和したまちなみ等の周辺整備や歴史的遺産群等を結ぶ観光ルートの整備を促進し、琉球歴史回廊の形成を図ります。

- ◇国際色豊かな独特のチャンプルー文化が根付いた沖縄市を中心として、沖縄全島エイサーまつりなどの音楽・芸能を活用した観光・レクリエーション拠点の形成を促進します。
- ◇本圏域に集積するスポーツ施設の拡充を促進するとともに、プロスポーツキャンプ等の受入れやおきなわマラソンなど各種スポーツイベント開催をはじめとするスポーツツーリズムを推進します。あわせて、スポーツ医・科学分野との連携など、新たな展開の促進も図りつつ、スポーツアイランド沖縄を形成する拠点としての整備を図ります。
- ◇農業や水産業と連携したグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム、生活体験等の体験・滞在型観光を促進します。
- ◇観光関連施設については、国内外からの観光客の増大や観光の高付加価値化などに対応するため観光地形成促進地域制度を活用した民間施設の整備を促進するほか、省エネ設備など新たな環境技術等の導入促進に努めます。

②情報通信関連産業の振興

③臨空・臨港型産業の振興と産業イノベーションの推進

④農林水産業の振興

- ◇農山漁村地域においてグリーン・ツーリズム等による交流・体験及び滞在拠点を形成し、観光リゾート産業との連携や農林水産業の多面的機能の発揮を図ります。

⑤文化産業の振興

- ◇本圏域に集積している様々な文化施設等を活用し、琉球舞踊、エイサー、空手、沖縄音楽などを発信するとともに、このような多様な文化資源を活用した文化産業の振興を図ります。

3. 国際交流・貢献等の推進

- ◇琉球大学及び私立大学等におけるアジア・太平洋地域との人文・社会科学から最先端の科学技術までを視野に入れた分野での研究交流等を促進します。

4. 駐留軍用地跡地利用の推進

資料：「沖縄21世紀ビジョン基本計画(改定計画)」沖縄県(2017(平成29)年5月)

(2) 沖縄県の観光を取り巻く環境

入域観光客数は増加傾向で、2016(平成28)年度には過去最高を更新しました。

- 沖縄県の入域観光客数は、2011(平成23)年の東日本大震災の影響などによって一時期落ち込みましたが、2012(平成24)年度以降再び増加に転じ、2016(平成28)年度には過去最高の877万人(対前年比10%増)となりました。
- 特に外国人観光客数は、クルーズ船の寄港回数の増加、沖縄発着航空路線の新規就航や既存路線の増便などにより、2016(平成28)年度には過去最高の212万9,100人(対前年比27.5%増)となりました。

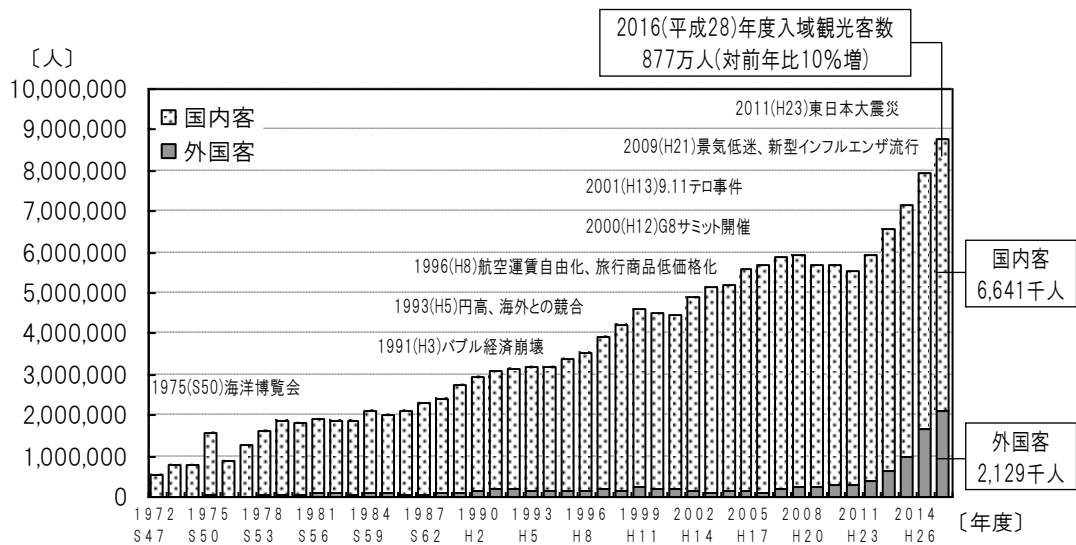


図 沖縄県の入域観光客数の推移

資料：「沖縄県入域観光客統計」沖縄県(2017(平成29)年4月)

- 季節変動については夏季(7～10月)と春季(3～4月)にピークが来ており、2016(平成28)年度はすべての月で前年同月を上回るとともに、各月の過去最高を記録しています。

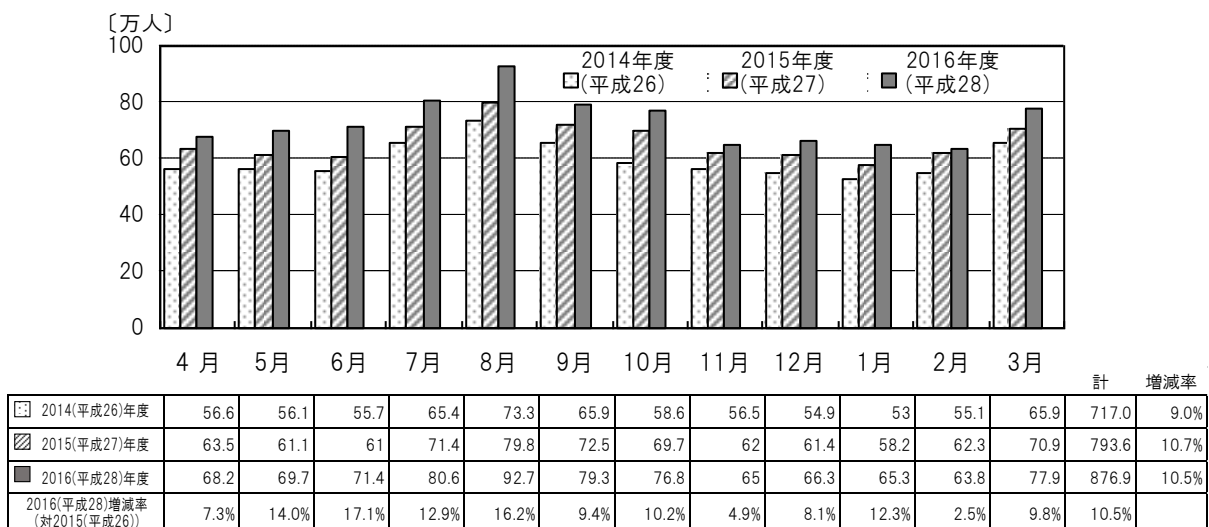


図 沖縄県の月別入域観光客数の推移

資料：「沖縄県入域観光客統計」沖縄県(2017(平成29)年4月)

観光収入、観光客一人当たり県内消費額ともに、過去最高を更新しました。

- 2009(平成21)年度の景気低迷や新型インフルエンザの影響から入域観光客数の減少とともに観光収入は減少しましたが、2012(平成24)年度以降再び増加に転じ、2016(平成28)年度には過去最高の6,603億円(対前年比9.6%増)となりました。
- また、観光客一人当たりの県内消費額は7万円台で推移しており、2009(平成21)年度には7万円を割り込みましたが、2014(平成26)年度には7万円を再び超え、2016(平成28)年は75,297円(対前年比0.8%減)となりました。

※観光収入と一人当たり県内消費額は、国内客と外国人客の消費額と観光客数より算出。

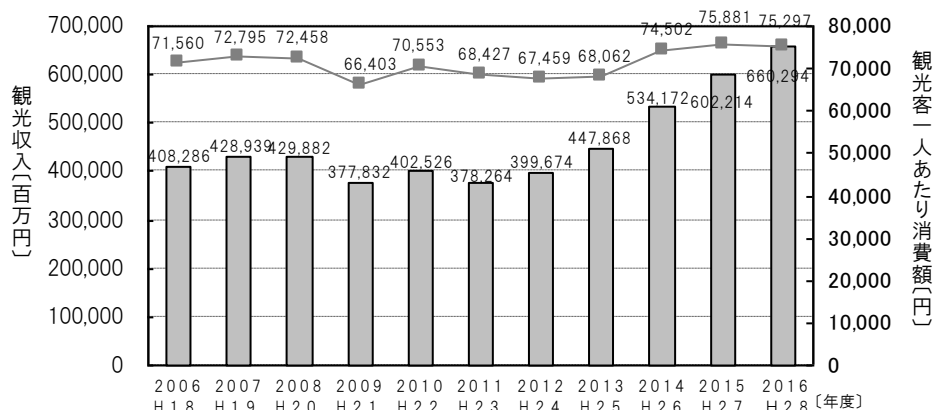


図 沖縄県の観光収入と観光客一人あたり県内消費額

資料：「平成28年版観光要覧」沖縄県(2017(平成29)年9月)

沖縄県のリピーター率は、8割を超えて推移しています。

- 沖縄県を訪れる国内観光客のリピーター(再来訪者)の比率は年々増加しており、2012(平成24)年度には8割を超えました。
- 2016(平成28)年度のリピーター率は84.8%となっています。

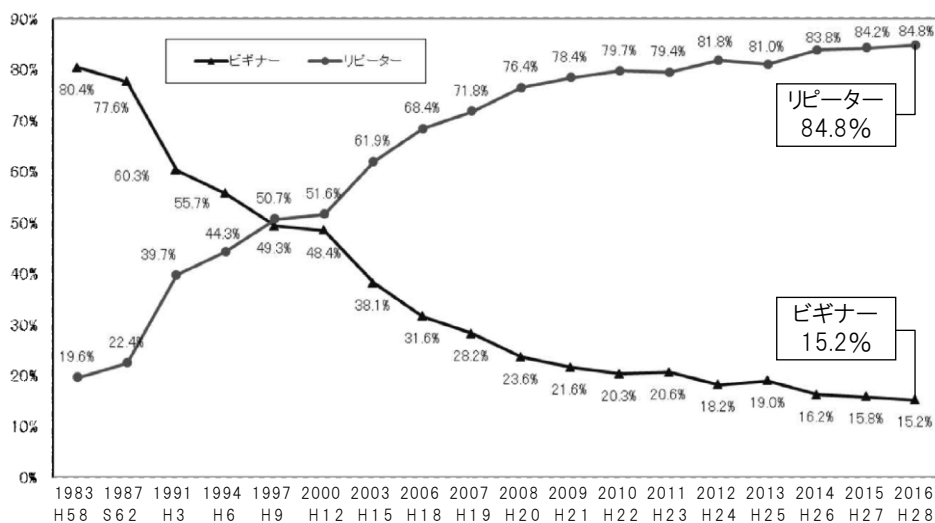


図 観光客のビギナーとリピーターの比率

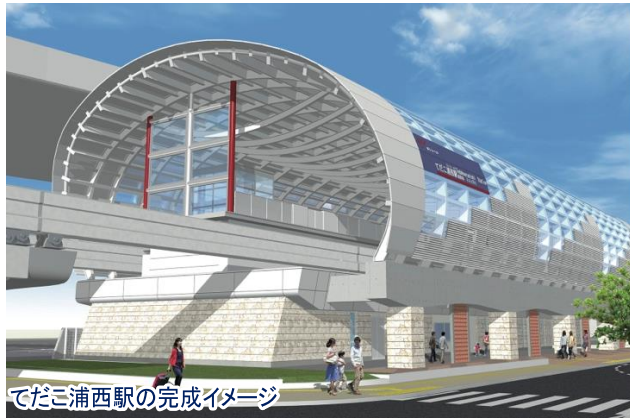
資料：「平成28年版観光要覧」沖縄県(2017(平成29)年9月)

中城村近隣では、人の流れが変化するさまざまな開発計画が進められています。

- 中城村近隣では、沖縄都市モノレール延伸、中城湾港マリンタウン、中城湾港泡瀬地区開発事業など、人の流れが生まれる施設整備が計画されています。

沖縄都市モノレール延伸事業

- ゆいレールの延伸によって、沖縄本島を南北に貫く沖縄自動車道と鉄道(ゆいレール)がつながり、那覇市内の渋滞緩和につながる「パーク&モノライド」が実現します。
- 事業期間：平成25～31年(予定)
- 路線延長：4.1km
- 建設予定の4駅
 - ・石嶺駅、経塚駅、浦添前田駅
 - ・てだこ浦西駅
 (多目的アリーナ、商業施設等)



てだこ浦西駅の完成イメージ

資料：浦添市ホームページ

中城湾港マリンタウンプロジェクト

- 西原与那原地区の活性化を目的とし、沖縄県、西原町、与那原町が協同で海辺のアメニティー豊かなまちづくりを推進する事業です。
- 事業期間：平成5～30年度(予定)
- 埋立面積：142ha
- 主要整備施設
 - ・大型MICE施設
 - ・マリーナ・人工海浜・海浜緑地
 - ・商業施設・工業団地・住宅団地
 - ・国道329号与那原バイパス 等



開発イメージ

資料：沖縄県ホームページ

中城湾港泡瀬地区開発事業

- 沖縄本島中部東海岸地域の活性化を図るため、商業や宿泊、マリーナや人工ビーチによる海洋レジャーなどを展開する『スポーツコンベンション拠点』を形成する事業です。
- 事業期間：平成13年度～
- 整備面積：95ha(H22.7見直し)
- 主要整備施設
 - ・マリーナ・旅客船ふ頭・海浜公園
 - ・宿泊施設・住宅・専門学校
 - ・イベント会場・サッカー場 等



隣接する新港地区では、大型外国クルーズ船の寄港が再開されました(H28)

整備イメージ図(平成22年7月時点)

資料：沖縄市ホームページ

【クルーズ船の受け入れ】

- 沖縄県では、近年急増しているクルーズ船の寄港、海路による外国人観光客に対応するため、受入港の整備計画も見据えた「沖縄クルーズ戦略」を策定しています(2017(平成29)3月)
- 中城村に近い中城湾港には、2016(平成28)年に新港地区西ふ頭において5年ぶりにクルーズ船が寄港し、2017(平成29)年には16回の寄港が見込まれています。現在は5万トン級までのクルーズ船受け入れが可能です。近年のクルーズ船の大型化を踏まえて、岸壁の改良や航行安全検討を行い、16万トン級のクルーズ船受け入れが可能となっています。
- 「中城湾港クルーズ促進連絡協議会(沖縄市、うるま市、北中城村)」では、今後乗客を受け入れる施設整備の要請や中部観光メニューの開発などに取り組むとともに、同港東ふ頭でのクルーズ船受け入れも視野に入れた環境整備に取り組んでいます。
- 中部広域市町村圏事務組合の「クルーズ船の受入に関する事務」について、これまでの沖縄市、うるま市、北中城村の2市1村に中城村と北谷町が2016(平成28)年より加わり、クルーズ船受け入れ体制の強化、観光誘客活動に取り組んでいます。

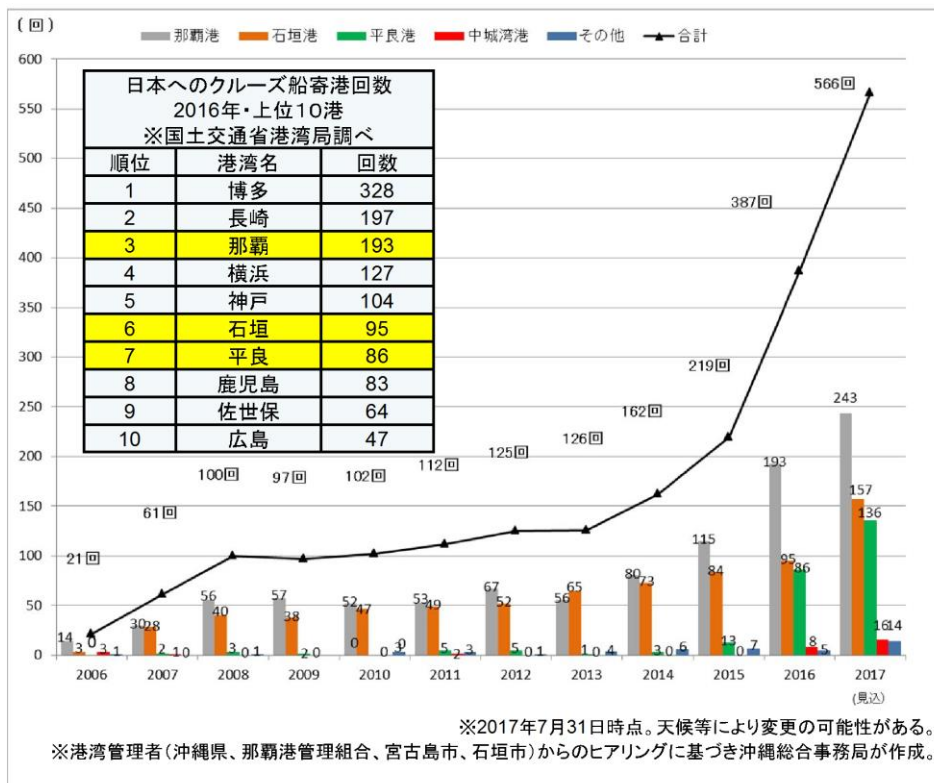


図 沖縄県へのクルーズ船の寄港回数の推移

資料：「沖縄の観光振興に向けた沖縄総合事務局の取組」内閣府沖縄総合事務局(2017(平成29)年9月)

2. 中城村における観光の現状【内部環境】

2.1 立地条件等

(1) 位置・交通

中部地域の東海岸に位置し、那覇空港から車で約30分の好立地にあります。

- 沖縄本島中部地域の東海岸側に位置し、那覇市から約15km圏域にあります。那覇空港からは、沖縄自動車道を利用して車で約30分の好立地条件にあります。
- 総面積^{*}は15.53km²(東西3.5km、南北7.5km)で、東側は中城湾に面し、北側は北中城村、西側は宜野湾市、南側は西原町に隣接しています。



図 中城村の位置

資料：「電子地形図25000」国土地理院



沖縄自動車道(中城PA付近)

資料：Googleマップ



国道329号(中城村役場周辺)

資料：Googleマップ

【幹線道路】

- 中城村には、平坦地を縦断する国道329号、台地を縦断する県道29号線、村境を縦断する沖縄自動車道が走っています。
- 那覇空港からは、一般道を利用した場合は国道329号を北上して約45分、沖縄自動車道を利用した場合は、西原ICまたは北中城ICから一般道へ下りて約30分で行くことができます。
- 沖縄自動車道の上り線には、一般道から中城PAを利用できるウエルカムゲートがあります。

【路線バス】

- 主に県民が利用する路線バスは、那覇空港や那覇バスターミナルなどから中城村を通る路線が運行しています。
 - ・ 普天間空港線：那覇空港～イオンモール沖縄ライカム、平日のみ1往復、村内を通る便が運行しています。
 - ・ 泡瀬東線：那覇バスターミナル～泡瀬営業所間で運行しています。
 - ・ 首里駅琉大快速線：首里駅～琉球大学間で運行しています。
 - ・ 琉大(首里)線：那覇バスターミナル～琉球大学～那覇バスターミナルの循環路線として運行しています。
 - ・ 沖縄自動車道のみを通る高速バスは中城PA「中城」バス停に停車します。

【コミュニティバス、乗合タクシー】

- 主に村民が利用する、護佐丸バス(村内コミュニティバス)と護佐丸タクシー(乗りあいタクシー)が運行しています。
 - ・ 護佐丸バスは地域住民の自立した日常生活及び社会生活に寄与するため、村内の実情に即した公共交通として導入されました。また、村民の生活交通の利便性をより高めるため予約制の乗合の護佐丸タクシーを運行しています。



護佐丸バス



護佐丸タクシー
資料：中城村ホームページ

(2) 土地利用

村域の4割が農地、2割が森林・原野でほとんどが市街化調整区域となっています

- 中城村の地形は、中城湾側から沿岸地域、平坦地域、斜面地域、台地地域の4つに区分されます。
- 主な土地利用は、沿岸地域の海浜、平坦地域の宅地・農地、斜面地域の森林・原野、台地地域の宅地・森林・農地となっています。2010(平成22)年の中城村の総面積は1,546haで、その土地利用は農用地589ha(38.1%)、森林・原野326ha(21.1%)、宅地203ha(13.1%)、道路170ha(11.0%)となっています。
- 南上原地区が市街化区域に指定されている他は、市街化調整区域となっています。



中城村航空写真
資料：GoogleEarth

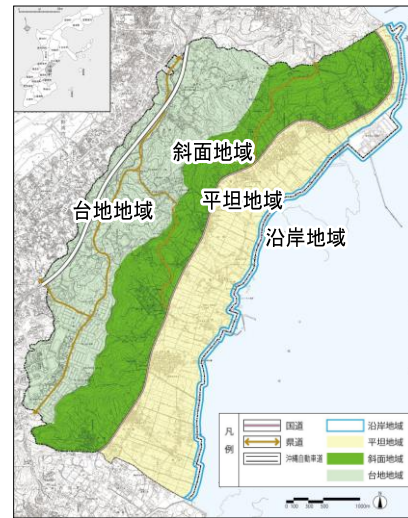


図 中城村地域類型区分
資料：第四次中城村国土利用計画(2012(平成24)年4月)

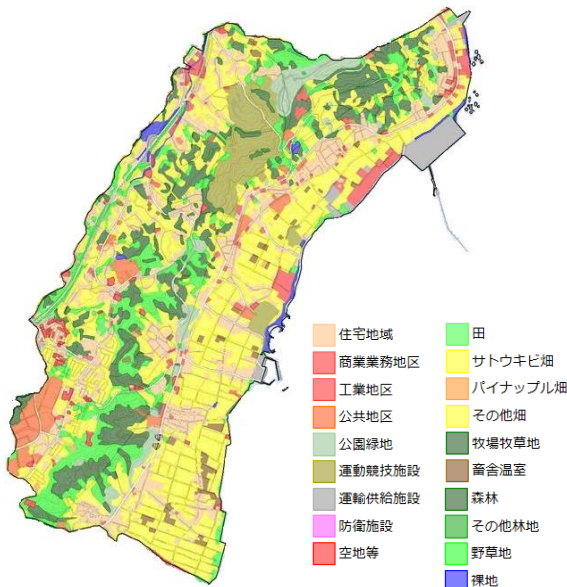


図 中城村土地利用図
資料：「沖縄県地図情報システム」を基に作成

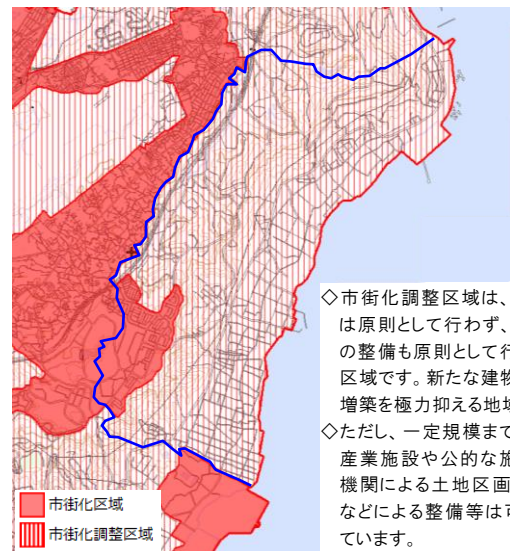


図 中城村区域区分図
資料：「沖縄県地図情報システム」を基に作成

◇市街化調整区域は、開発行為は原則として行わず、都市施設の整備も原則として行われない区域です。新たな建物の建築や増築を極力抑える地域です。
◇ただし、一定規模までの農林水産業施設や公的な施設、公的機関による土地区画整理事業などによる整備等は可能となっています。

(3) 歴史

豊かな土地と自然に恵まれ、永いまちづくりの中で村の特性が形成されました。

①集落(シマ)形成時代〔太古～古代〕

□中城村は、古くは約3,500年前の貝塚時代から人が住みついていた所として知られています。各部落では、神を祀る習慣も現われ、ウタキやウガンジュをよりどころとしながら生活が営まれていました。



伊集世持殿(ユージドゥン)



久場の御嶽

②間切時代〔中世～近世〕

□12世紀ごろには、小さな村々を1つにまとめて支配する「按司(アジ)」が現れるようになり、按司の支配する領域単位を「間切(マギリ)」とし、間切ごとに「城(グスク)」が築かれました。

□「中城」の地名は、おもしろさうしにもうたわれているように、古くから由緒深いもので、1440年代に按司「護佐丸」によって築かれた中城城と自然の良湾として知られた中城湾によって象徴されています。また、第2尚氏王統時代には「中城」は王世子の称号に用いられ、世子領とした豊穰の地として広く世に知られていました。

□琉球王朝期の主要な道として、首里城方面からの宿次の道である王府と番所間を結ぶ情報の道、物資を運搬する道、村々の相互の生活を結ぶ道がありました。中城村には、太平洋を遠望しながら丘陵上に行く「グスク道」、集落を結ぶ道、海岸線に沿って続く「スガチ(潮垣)道」と呼ばれる道がありました。

□海の道としては、おもしろさうしの古謡から、屋宜の港がグスク時代の交易港として、外国(支那)のモノや人の交流があったことが伺えます。

□護佐丸が阿摩和利に討たれた時に城も破壊され、その後の琉球王朝期は農漁村として生活を営んできました。



中城城跡



現在の村道潮垣線

又比嘉から上る
召しよわちへ似せ
按司添いでだす
誰が着ちへ似せる
タムヤ
直垂や
屋宜から上る
シタリ
ヨロイ
誰が着ちへ似せる

図 おもしろさうし

資料：「中城村史 第一巻通史編」

③中城村時代〔近代～〕

- 18世紀以降、「屋取(ヤードウイ)」の増加によって台地部にも集落や農地が拓かれていきました。中城間切は、27ヶ字で形成されていましたが、編入・分割を繰り返して、29ヶ字となりました。間切の番所は1611年に中城城本丸内に設置されて以来、中城間切番所、中城間切役場、中城村役場として使用されてきましたが、昭和20年の戦災により消失しました。
- 戦前の中城村は、県下屈指の移民村として多くの村民を海外に送り出し、帰還した村民が移民先の文化、スポーツや生活習慣を持ち帰り普及させるなど、琉球王朝期と同様に交流の盛んな村であったことが伺えます。
- 戦後、軍施設によって村が南北に分断され行政執行に支障を来したことから、1946(昭和21)年5月20日に北中城村を分村しました。
- 本村では産業振興に力が注がれ、農業はサトウキビを中心とした営農から1980(昭和55)年頃からは花き園芸も広く営まれ、都市近郊型の農業形態へ移行しています。また、海岸沿いには比較的大きな石油精製・アルミ・製紙・製材などの工場が建設されてきましたが、現在では、石油精製工場は発電所、製紙工場は住宅地へと変化しています。
- また、西原町から本村の南上原にかけて1980(昭和55)年代に琉球大学のキャンパスができ、南上原を中心に都市文化交流拠点として人口が増加しています。



図 間切図 中頭南(西原間切・浦添間切・宜野湾間切・中城間切)〔黄色部分が中城間切〕

資料：沖縄県立図書館貴重資料デジタル書庫



電照菊



吉の浦火力発電所



琉球大学キャンパス

資料：琉球大学ホームページ



南上原地区
(南上原系蒲公園)

(4) 人口・世帯

南上原土地区画整理事業などにより、人口・世帯数は増加傾向にあります。

- 2016(平成28)年の総人口は20,277人、世帯数は8,066世帯で、いずれも増加傾向にあります。1985(昭和60)年以降は、毎年社会増であり、村外から移り住んできた人たちが多い村であることが伺えます。
- 2015(平成27)年国勢調査では、全国の183の村のうち、2010(平成22)年からの人口増加数は1,774人で全村中1位、増加率は10.0%で鹿児島県十島村に次いで2番目に高い村です。
- 一方で、中城村人口ビジョンの推計によると、南上原地区以外では人口は減少傾向で、村全体としても約20年後の2040年をピークに人口減少期に入る見込みです。

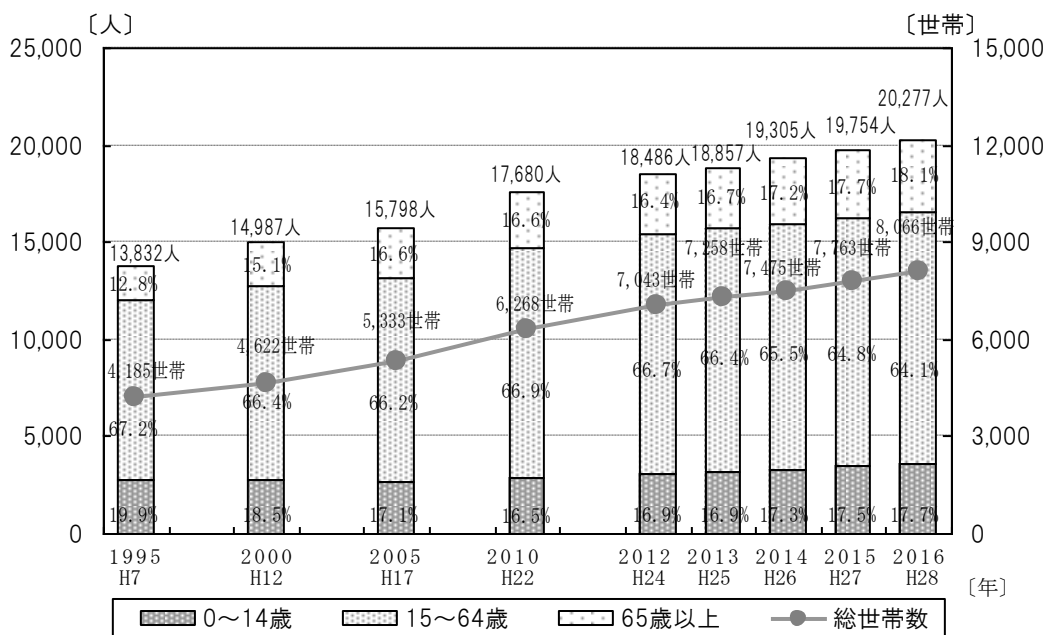


図 本村の総人口と世帯数の推移

資料：1995(平成7)～2010(平成22)年は国勢調査、2012(平成24)年以降は住民基本台帳

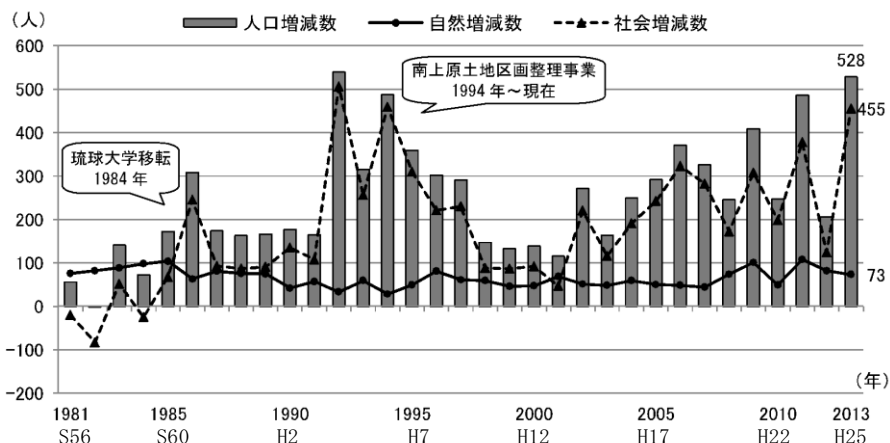


図 本村の自然増減と社会増減の推移

資料：「中城村人口ビジョン及び総合戦略」(2016(平成28)年3月)

(5) 産業

小売業や飲食サービス業など観光に関わる業種は、約1割となっています。

- 産業別割合は、第1次産業3.2%(沖縄県4.5%)、第2次産業18.2%(沖縄県13.8%)、第3次産業74.7%(沖縄県73.5%)で、概ね沖縄県と同様の割合となっています。
- 2015(平成27)年の産業別就業人口は8,801人で、医療・福祉が最も多く15.7%(1,386人)、次いで卸・小売業14.1%(1,244人)、建設業12.0%(1,056人)、サービス業(他に分類されない)8.6%(759人)となっています。
- 観光に係わる「宿泊・飲食サービス業」の就業者数は461人で、全体の5.2%を占めています。

※「卸・小売業」の細分類は国勢調査では把握できないが、「平成26年商業統計」によると、「小売業(各種商品、織物・衣類・身の回り品、飲食物品、その他)」の就業者数は645人(7.3%)となっています。

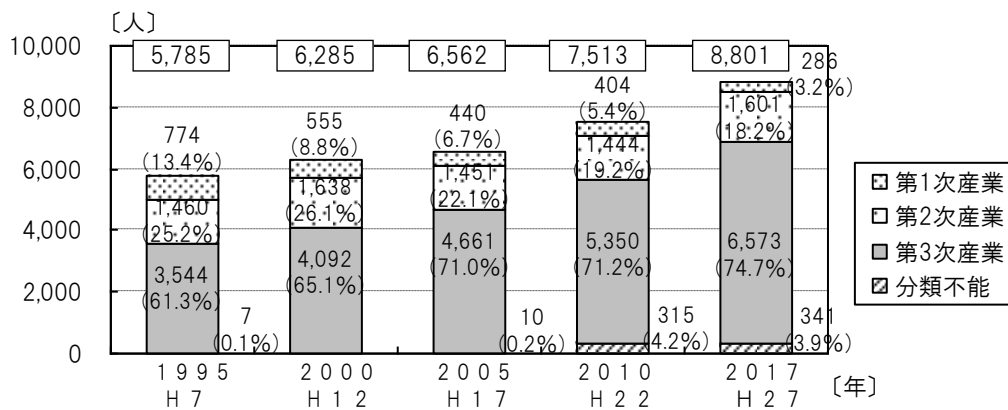


図 産業別就業人口の推移

資料:「国勢調査」総務省統計局

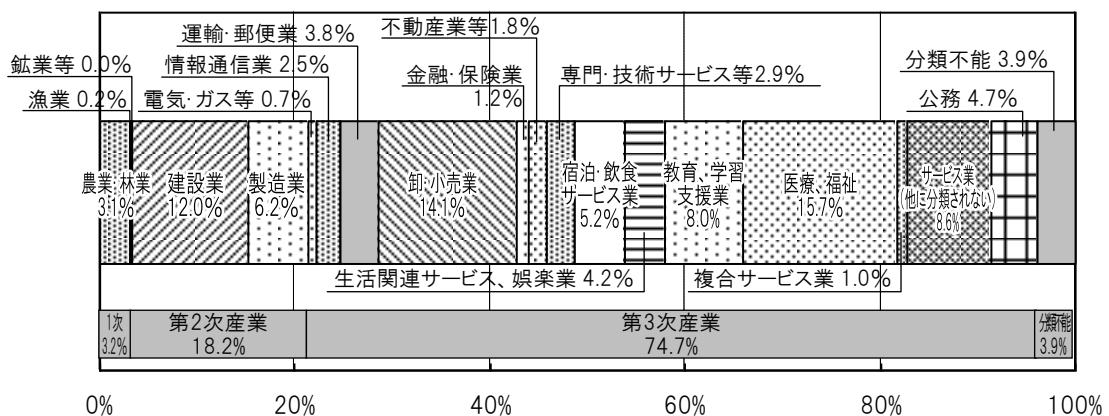


図 産業別就業人口 [2015(平成27)年]

資料:「国勢調査」総務省統計局(2015(平成27)年)

(6) 農業・漁業・商業・工業

農業が盛んです。大型商業施設の進出で周辺市町村からの利用客も増えています。

1) 農業

- さとうきび、花き(きく)を中心に野菜類(島にんじん、島大根、トマト等)、マンゴー、バナナ等が栽培されています。その他、採卵鶏や養豚の畜産業も行われています。



島にんじん畑

2) 漁業

- 延縄、刺網、定置網を主とした漁業を行っており、イカ類は漁獲量の半分を占めています。
- また、沿岸海域の環境特性を生かし、シャコガイの放流試験、タマンの中間育成・放流などの栽培事業にも着手しており、活力ある漁業生産の拡大を進めています。



中城村の漁業

資料：中城村ホームページ

3) 商業・工業

- 商業は、大型店舗の進出により、周辺市町村からの利用客も増えています。その一方で、既存の小規模零細企業の集客力は落ち込みがみられます。
 - ・ 2014(平成26)年の事業所数は、製造業50事業所、金属製品16事業所、食料品10事業所、窯業土石製品6事業所^{※1}となっています。
 - ・ 2014(平成26)年の卸売業・小売業の年間商品販売額は172億円となっており、このうち飲食料関連は52億円となっており、全体の約3割^{※2}を占めています。



中城村の特産品

資料：中城村ホームページ

- 工業は、食品加工や製鉄加工業が主となっています。
- また、吉の浦火力発電所が2012(平成24)年11月に営業運転を開始し、周辺における企業誘致による雇用確保・地域活性が期待されている地域です。



吉の浦火力発電所

資料：※1「平成26年経済センサス」総務省(2016(平成28)年2月公表)

※2「平成26年商業統計表」経済産業省(2014(平成26)年3月公表)

2.2 中城村の観光の現状と動向

(1) 中城村来訪者数

来訪者数は増加傾向で、2016(平成28)年度は約14万5千人と推計されます。

- 中城村の施設やイベントに訪れた人をカウントしているのは、「中城城跡来場(中城城跡利用の祭り・イベント含む)」、「民泊」、「サッカーキャンプ見学」、「中城あたいぐわ〜朝市」です*。
- 中城城跡には、中城城跡を利用した祭り・イベントの来場者も含めて多くの観光客が訪れており、2013(平成25)年度以降は10~11万人前後で推移しています。
- 一方で、2013(平成25)年度以降の来訪者数の増加は、中城城跡を活用した祭り・イベント来場者やサッカーキャンプ見学者の増加が顕著であり、新たなイベント等の開催により、交流人口を増やすことに成功していることが伺えます。
- 2016(平成28)年度の来訪者数は14万5千人と推計されます。

※来訪者数は、村内と村外の区別はされていません。「中城あたいぐわ〜朝市」の来場者は村民が多いと考えられますが、継続してデータを取得しているため来訪者数として計上しました。

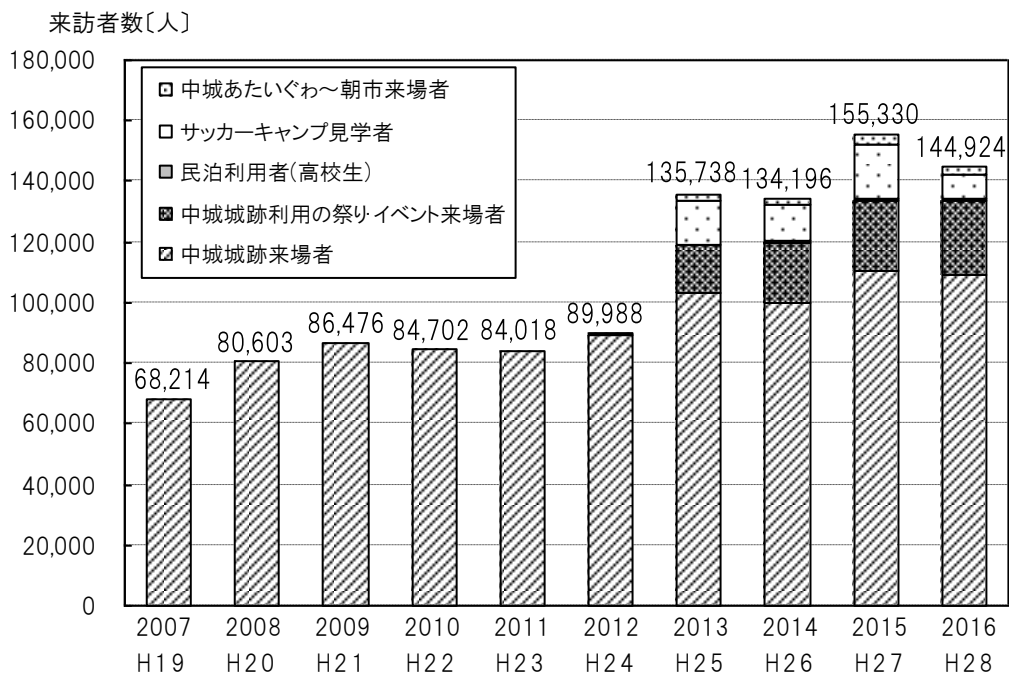


図 中城村来訪者数の推移

資料：中城村企業立地・観光推進課提供データ



中城城跡利用のイベント



民泊(高校生)



プロサッカーキャンプ

資料：中城村企業立地・観光推進課提供

(2) 地域資源

自然、歴史・文化、農水産物、高台から望む風景など、多様な地域資源があります。

- 中城村は、自然、景観、歴史、文化・芸能、祭り・イベント、健康・運動、体験、特産・食、産業、中城村の人々など、多様な地域資源を有しています。

1) 自然・景観

- マリン・スカイスポーツなどのアクティビティ、おだやかな穴場的ビーチでのくつろぎ、朝日・星空の眺めなど、来訪者のニーズに応える「海の資源」が東海岸一面に広がっています。
- 村域の西側の台地から、斜面林の緑を挟んで平坦地・海岸が広がっており、小さな村の中で「多様な地形と自然環境」を見ることができます。
- グスクと集落と一体となった歴史の道は、他の歴史の道では見られない中城ハンタ道の強みです。「高台から望む素晴らしい景観」や「沖縄らしい集落の景観」など歩きながら楽しむことができます。
- 県立中城公園は、多くの子ども達が楽しめるプレースポットです。遊び場としてだけでなく、「昔の城下町からグスクを見上げる風景」、「周辺の緑と一体となった豊かな自然」が残された場所としても強みを活かせる地域資源です。



マリンスポーツ



スカイスポーツ



台グスクからの海の眺め



おだやかな海(吉の浦海岸)



くつろげる砂浜(中城モール裏海岸)



ペリーの旗立岩(ハンタ道沿い)から望む東海岸の海と空



沖縄らしい集落景観



ハンタ道と民家



城下町からのグスクの眺め



斜面林・平坦地・海岸の風景

2) 歴史

- 世界遺産「中城城跡」をはじめ、新垣グスク、護佐丸の墓、ペリーの旗立岩、数多くの拝所、民話など、琉球史の中でも貴重な歴史資源を有しています。
- 護佐丸や中城城跡をはじめ、琉球史を伝える護佐丸歴史資料図書館があります。
- また、平和の尊さを伝える「沖縄戦に関する遺跡」も残されています。



中城城跡



護佐丸の墓とそこから望む景観



ペリーの旗立岩



護佐丸歴史資料図書館



沖縄戦に関する遺跡
(161.8 高地陣地)

3) 文化・芸能

- 旧盆には、津覇、北上原、久場など、各地域独自のエイサーが受け継がれています。北上原では、後継者育成のため子どもエイサー隊も結成しました。また、エイサーの他、獅子舞や綱引き、復活した添石の旗頭など、夏の風物詩が受け継がれています。
- 打花鼓(ターファークー)という芸能が受け継がれているのは、世界でも中城村の伊集のみで、貴重な歴史文化遺産です。
- 琉球漆器の技法「琉球螺鈿」は中城村でしか見ることのできない貴重な伝統工芸です。
- 組踊「護佐丸」は、中城村の英雄を題材にした中城村ならではの芸能です。



久場青年会エイサー
資料：とよむ中城



当間の綱引き
資料：とよむ中城



添石の旗頭
資料：とよむ中城



伊集の打花鼓
資料：発見!なかぐすく



琉球螺鈿
資料：とよむ中城



組踊「護佐丸」
資料：とよむ中城

4) 祭り・イベント

- 「中城護佐丸まつり」、「中城文化まつり」は、3年に一度しか参加できない貴重な祭りです。この他にも、中城村の特産品を販売する「とよむ中城産業まつり」や「中城城ツワブキまつり」では、5万本のツワブキが中城城跡の城壁と醸し出す見事な風景を見ることができます。
- ユニークベニュー※として世界遺産「中城城跡」を活用したイベントは、中城村でしか見ることのできない貴重な体験です。
- 朝市やわかてだ(冬至の日の出)を見るイベントは、「朝」をキーワードとした東海岸ならではの取り組みと言えます。
- 5年に一度開催される世界のウチナーンチュ大会と合わせて、中城人(ナカグスクンチュ)交流会を開催し、海外の村出身者との交流を深めています。

※ユニークベニュー(特別な会場)：歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと。



中城護佐丸まつり
資料：中城村ホームページ



中城城ツワブキまつり
資料：中城村ホームページ



中城城跡を活用したイベント



わたてだを見る集い
(中城城跡)
資料：とよむ中城



中城あたいぐわ～朝市



世界のウチナーンチュ大会
・中城人交流会
資料：中城村ホームページ

5) 運動・健康・体験

- プロサッカーチームのキャンプでは多くの見学者が訪れます。また、吉の浦公園のスポーツ施設機能強化に向けた取り組みも進められており、運動、健康、体験は中城村の地域資源のキーワードの一つと言えます。
- 村内には、中城公園や南上原糸蒲公園など、多くの子どもたちで賑わう公園も整備されています。



プロサッカーキャンプ



護佐丸トリムマラソン
資料：広報なかぐすく



護佐丸ウォーキング
資料：中城村ホームページ



工房体験
資料：中城村ふるさと納税特設サイト



中城公園



南上原糸蒲公園

6) 特産・食

- 沖縄県内でも有数の農業都市として、多様な農産物、畜産、水産物を有しています。
- 海と空を眺めながら食べるランチ、古民家でくつろぎながら食べる沖縄そば、おしゃれな洋菓子店、田芋を使った手作り菓子店などは、来訪者のニーズに応える食の地域資源と言えます。
- 県外にも知られるポーク、モンドセレクション最高金賞を連続受賞しているもろみ酢、県内で唯一ヤギ乳を利用した乳製品など、中城村ならではの食の地域資源を有しています。
- 地元食材が並ぶ直売所等は、県内来訪者のニーズに応える地域資源と言えます。



島にんじん 島ダイコン

島野菜

資料：中城村ホームページ



電照菊



水産物

資料：中城村商工会



海を見ながら食を楽しむイリイ食堂



古民家活用沖縄そば屋



おしゃれな洋菓子店



田芋を使った手作り菓子

資料：とよむ中城



ポークなどの加工品

資料：中城村ふるさと納税特設サイト



もろみ酢(モンドセレクション最高金賞)

資料：とよむ中城



県内で唯一ヤギ乳を利用した乳製品



直売所



直売所

7) 宿泊

- 沖縄県の統計上、宿泊施設が1件もない市町村は中城村のみです。
- 兄弟都市の福岡県福智町の児童受け入れや、NPOが主体となった高校生を対象とした修学旅行ふれあい体験プログラム(修学旅行の民泊体験)は、将来の中城ファンづくりにつながる重要な取り組みと言えます。

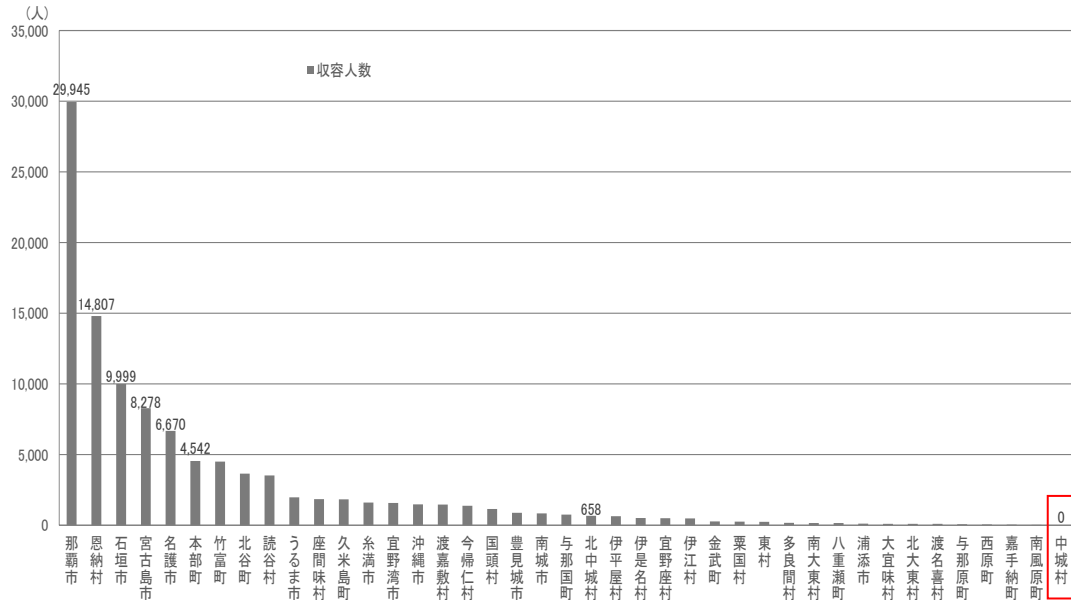


図 県内市町村の宿泊施設収容人数

資料：「2015(平成27)年版観光要覧」沖縄県(2016(平成28)年8月)



民泊の様子

資料：中城村企業立地・観光推進課提供

8) 大学

- 南上原地区には、県内唯一の国立大学である琉球大学のキャンパスがあります。
- 琉球大学には、県外出身者や留学生など、毎年多くの学生が入学しています。
- ◇「学生生活実態調査報告書(2015(平成27)年度)」によると、学部生の約3割、大学院生の約4割が県外出身です。
- ◇「外国人留学生受入の現状(2016(平成28)年5月1日現在)」によると、毎年約200名以上の外国人留学生を受け入れており、2016(平成28)年度は、アジア、大洋州、北米、中南米、欧州、中東、アフリカなど44ヶ国から受け入れています。

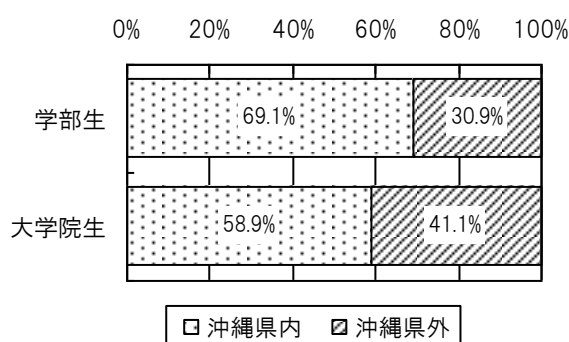


図 県外出身者の割合

資料：「学生生活実態調査報告書」(2015(平成27)年)



留学生文化祭

資料：琉球大学ホームページ

- 琉球大学には、国立大学法人としては初の観光系学科である観光産業科学部観光科学科・大学院観光科学研究科があり、様々な地域連携活動を行っています。
- ◇観光関連事業者との包括的連携協定(沖縄ツアーリスト株式会社、日本トランスオーシャン航空株式会社、株式会社かりゆし)
- ◇琉球大学公開授業(観光マーケティング論など)
- ◇沖縄県と一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローが主催する「学卒プロジェクト」での入賞 等



図 学卒プロジェクト

資料：一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローホームページ

(3) これまでの観光振興の取り組み

中城村の上位関連計画とこれまでの観光振興の取り組みを整理します。

- 観光振興計画と整合を図る必要がある上位関連計画と、これらに基づいて中城村がこれまでに取り組んできた主な観光振興施策を整理します。

1) 上位関連計画

- 以下の関連計画について、概要を整理します。

- ①中城村第四次総合計画後期基本計画(2017(平成29)年3月)
- ②中城村人口ビジョン及び総合戦略(2016(平成28)年3月)
- ③中城村都市計画マスタープラン(1999(平成11)年3月)
- ④第四次中城村国土利用計画(2012(平成24)年4月)
- ⑤第4次中部広域計画(2012(平成25)年3月)

①中城村第四次総合計画後期基本計画(2017(平成29)年3月)

《中城村の将来像》

「心豊かな暮らし～住みたい村、とよむ中城～」

《村づくりの基本理念》

「自然・歴史・文化」を受け継ぐ村づくり

：自然・歴史・文化の価値を再認識することによる村民共有財産の継承

「安全・安心」を築く村づくり

：日々の暮らしの中での安全・安心が確保された環境の創出

「暮らし」を描く村づくり

：機能的で充足した生活環境や経済的安定を得ることによる活力の向上

《観光振興に関わる基本施策と数値目標》

基本施策	数値目標(2015(平成27)年⇒2021(平成33)年)
◇中城城跡及び周辺の計画的な整備の推進	◇中城城跡での観光客数 :133,541人⇒150,000人
◇観光客の受入体制の整備	◇民泊宿泊者数 :600人⇒1,200人 ◇誘客イベントの実施 :2件⇒2件 ◇ウォーキングイベントの実施 :0回⇒1回 ◇スポーツキャンプの誘致 :3件⇒3件 ◇スポーツイベントの開催 :3回⇒3回
◇新たな観光プログラムの創出	◇旅行商品の開発 :-⇒1件
◇広報・PRの充実	◇観光に関する広報の強化 :-⇒1件 ◇ICTを活用した観光広報の実施 :-⇒1件
◇特産品開発等の推進	◇新規特産品開発数 :1件⇒2件
◇新たな販売ルートの確立	◇新規特産品販路数 :1件⇒2件
◇効果的な情報発信の実施	◇産業まつりの開催 :2回⇒2回 ◇情報発信の拡充 :-⇒1件 ◇活用実績の向上 :2件⇒1件

②中城村人口ビジョン及び総合戦略(2016(平成28)年3月)

《総合戦略の基本目標》

- 心豊かな暮らしを維持しながら均整のとれた人口増加を維持し「若者が住みたい」、「子どもを育てたい」を醸成するまちを目指して

《4つの方向性》

- ◇「住みたい、住める」暮らしを支えるまちづくり
 - ：新しいまちづくりの推進、農のある住環境の整備、公共交通網の拡充、地域防災体制の育成・充実、村民参加に支えられた協働による村づくり
- ◇「産みたい、育てたい」若い世代を支えるしくみづくり
 - ：出産から子育てまでを包括した支援体制の構築、小学校ごとの特長を活かした教育の充実、郷土愛と健康を育む食育の充実
- ◇「住み続けたい」定住を実現する暮らしづくり
 - ：生涯にわたって活躍できる社会教育の充実、若い力を活かす琉球大学との官学連携の推進、3世代の暮らしの実現
- ◇「働きたい、訪れたい」豊かな資源を活かしたしごとづくり
 - ：農水産業の振興、商工業の振興、特産品の開発・販売、観光の振興

《観光振興に関わる基本的な方向性とKPI》

基本的方向	KPI(重要業績評価指標) (目標年は2019(平成31)年度末)
◇琉大生を活用した活動支援の展開	◇琉大生の村事業への参加述べ人数 :120人
◇特産品の開発推進、新たな販売ルートの確立、効果的な情報発信	◇新規特産品開発数 :2件 ◇新規特産品販路数 :2件
◇観光客の受入体制の整備	◇民泊宿泊者数 :1,200人
◇新たな観光プログラムの創出	◇中城城跡での観光客数 :15万人/年

③中城村都市計画マスタープラン(1999(平成11)年3月)

《まちづくりの視点》

- 中城村の価値を生み出している自然、歴史、田園の優れた環境
- 自然的歴史的環境と都市環境の調和、環境資源の積極的な活用を図ることにより中城村の価値を高める。

《理念》

- 中城村ならではの自然や歴史・文化を守り育てつつ、村民の誰もがいつまでも住みよいと思えるまちを構築する。

《目指す姿》

- ◇中城村の環境の特性を守り育てる
 - ・緑豊かな斜面緑地や農地の広がり、海や川の水辺などの自然環境が歴史的・

文化的資源や集落地(住宅地)と一体となって存在していることが中城村らしさを生み出している。

- ・この環境を守り育て、これにふさわしい風格あるまちなみを育てていく。

◇中城村の環境に生き生きとした暮らしを育む

- ・中城村の優れた環境をうまく活かしていくことによって、人々の暮らしや活動が生き生きと営まれるまちとしていくことが必要である。
- ・村民にとっては、優れた環境を享受しながら、安全に快適に住めるまち、産業を営む人々にとっては、中城村の環境や文化を活かした生業で自らの生活を支えることができるまち、中城村の環境を大切にする来訪者に対しては、もてなしの心をもって共に楽しむことのできるまちであることを目指す。

《村土イメージを形成する2つのゾーン、3つのベルト、3つの拠点》

村土イメージを形成するキーワード	概要
村土イメージを形成する2つのゾーン	<p>①田園文化ゾーン ◇地域特有のハンタ地形(崖)、斜面地を背景に、肥沃な土地と中城湾の潤いと恵みを受けて、古くから集落が拓けた、<u>中城村の景観、風土の基礎となるゾーン。</u></p> <p>②緑住都市ゾーン ◇緩やかな起伏をもつ台地に、琉球大学の立地を契機に市街地が進行しつつある<u>村土の新しいイメージを創造するゾーン。</u></p>
村土の発展、まとまりを形成する3つのベルト	<p>①田園生活の中心ベルト(国道329号周辺) ◇国道を軸に集落地が連担しており、公共施設や商店・飲食店等の各種事業所の立地がみられ、<u>村内生活空間を南北に結ぶ中心ベルト地帯。</u></p> <p>②都市文化情報のベルト(県道29号線周辺、グスク道) ◇市街化需要に対応した緑住都市生活の中心であり、丘陵上の道(グスク道)と調和しながら、<u>新たな暮らし情報を吸収するとともに創造、発展していくベルト地帯。</u></p> <p>③海辺のリフレッシュベルト(湾岸道路周辺、スガチ道) ◇古くから、生活と海とのかかわりの中で親しまれてきた海岸線(スガチ道)の変化に対応し、<u>中城湾沿岸の広域的な連携を可能にする環境共生型のベルト地帯。</u></p>
コミュニティの中心となる3つの拠点	<p>①豊かな暮らしサービス拠点(中央地区) ◇コミュニティホール(吉の浦会館)や吉の浦公園を含む、村民のふれあい形成に近接し、身近な買い物や集約された行政サービスなど、村民生活の利便性を高める、<u>村のタウンセンターとしてのシンボル拠点。</u></p> <p>②歴史文化ふれあい拠点(中城公園周辺) ◇国指定の史跡地域を中心に、広域的な利用を促す県営公園整備が進行しつつある、<u>村の歴史のシンボル拠点。</u></p> <p>③都市文化交流拠点(南上原地区区画整理事業地区) ◇琉球大学周辺における新しいまちづくりが進行しつつある、<u>教育と文化のシンボル拠点。</u></p> <p>④商工業振興拠点(電力施設周辺地区)【総合計画で追加された拠点】 ◇電力施設の立地に伴う周辺の商工業および居住環境を整備し、<u>商工業振興の拠点形成を図るとともに、エココーストを含む海岸部の整備によって沿岸地域のネットワーク化を図る拠点。</u></p>

④第四次中城村国土利用計画(2012(平成24)年4月)

《地域類型別の村土利用の基本方向》

地域類型	村土利用の基本方向
平坦地域	<ul style="list-style-type: none"> ◇田園居住を促進する<u>居住環境整備</u> ◇農用地の高度利用の促進、農業関連施設の整備 ◇商工業用地等の適正配置・誘導 ◇公共施設等の中心的機能の整備拡充と適正配置 ◇久場・泊地区の市街化区域編入を基盤として工業適地の確保を行い、<u>新たな企業を誘致</u>
斜面地域	<ul style="list-style-type: none"> ◇防災等の村土保全、環境浄化や自然景観創出等の<u>自然機能の保全強化</u> ◇墓地の適正配置と景観的側面からみた土地利用規制 ◇環境特性を活かした<u>公園・レクリエーション機能等の整備</u> ◇土地需要の動向を踏まえた<u>適切な農用地の活用</u> ◇森林等の<u>自然環境保全</u>
台地地域	<ul style="list-style-type: none"> ◇森林等の自然環境保全 ◇居住ニーズに応じた<u>新たな居住環境整備</u> ◇公園・レクリエーション・スポーツ機能等の整備 ◇地域開発の動向に対応した<u>都市施設等の適正配置</u>
沿岸地域	<ul style="list-style-type: none"> ◇公園・レクリエーション機能の拡充 ◇海浜の優れた自然環境を活かした、<u>漁業、観光・ツーリズム等の産業振興拠点の創出</u> ◇産業振興のための整備拡充 ◇国道329号西原道路の早期実現の推進

⑤第4次中部広域計画(2013(平成25)年3月)

《目指すべき将来像》

「人と自然と文化が響き合い 未来をともに拓く中部圏」

《環境分野の将来像》

- ◇観光分野においては、世界遺産である中城城跡、勝連城跡、座喜味城跡等の重要な文化財、各地域に受け継がれる伝統芸能などを中部全体の観光資源として捉え、圏域内に文化資源のネットワーク化や高等教育機関との連携による観光分野への人材供給やグローバル化に対応できる人材育成のための環境整備等を行うことで、中部ならではの観光振興を目指す。
- ◇東海岸地域には宿泊施設が十分に供給されていないことから、健康保養型観光の振興や島しょ地域を活かした島めぐりメニューの開発、マリンスポーツやエコツーリズムの自然資源の活用等、地域特性を活かした観光振興策の展開を促す。
- ◇中部広域圏に集積しているスポーツコンベンション施設を活用したプロスポーツキャンプの受入や各種スポーツイベント等を有機的に連携させる組織体制の整備等により、更なるスポーツツーリズムの推進を図る。
- ◇住民参加による緑化活動等により、中部が一体となった観光まちづくりの推進を目指す。

2) 中城村におけるこれまでの観光振興の取り組み

■中城村でこれまでに取り組んできた主なイベント等の取り組みを整理します。

①中城城跡を活用したイベントの開催

中城城跡をユニークバニユーとして活用したイベントを数多く開催しています。

■中城城跡を活用した祭り・イベントは、中城護佐丸まつり、中城村グスクの響き、わたてだを見る集いをはじめ、2013(平成25)年度からプロジェクションマッピング、2014(平成26)年度から世界遺産劇場、その後は横綱土俵入り、中城狂言などが開催されています。

■引き継がれてきた祭りの継承や新たなイベントの開催・誘致によって、中城村を訪れる人が増え、交流人口が増えています。

イベント	主催	概要
中城護佐丸まつり	中城護佐丸まつり実行委員会 (中城村企画課)	◇3年に一度の開催で、音楽ライブやエイサー演舞、花火打ち上げなどが行われます。2016(平成28)年10月に第12回目を開催しました。 ◇来場者数は、2013(平成25)年度が10,352人、2016(平成28)年度が8,595人でした。
中城村グスクの響き	中城村グスクの響き実行委員会	◇県内の五大グスクゆかりのエイサーが終結するイベントで、2016(平成28)年10月に第6回目を開催しました。 ◇来場者数は、2015(平成27)年度が6,108人、2016(平成28)年度が1,269人でした。
わかてだを見る集い	中城城跡共同管理協議会	◇冬至の日に「わかてだ」を中城城跡から迎え、讃えるイベントで、強く生き抜く力を育むと共に、中城・北中城の両村が未来永劫に発展することを祈願する集いです。 ◇2017(平成29)年12月に第20回目を開催しました。 ※同じころに中城城ツワブキまつりも始まります。
プロジェクションマッピング	中城村世界遺産中城城跡プロジェクト実行委員会	◇世界遺産と伝統芸能と最新技術が融合したイベントで、2017(平成29)年10月に第5回目を開催しました。 ◇来場者数は、2013(平成25)年度が5,352人、2014(平成26)年度が13,319人、2015(平成27)年度が11,604人、2016(平成28)年度が3,665人、2017(平成29)年度が10,140人でした。
世界遺産劇場	世界遺産劇場実行委員会、BSフジ、沖縄テレビ放送、エフエム沖縄	◇日本各地の世界遺産と世界遺産登録候補地を舞台に、伝統芸術をはじめとした様々なジャンルの音楽・舞踏などのコンサートを行うアートプロジェクトです。 ◇沖縄県内では、これまでに中城城跡のみで開催されており、2017(平成29)年度に4回目の開催を迎えます。 ◇来場者数は、2014(平成26)年度が6,360人、2015(平成27)年度が1,800人、2016(平成28)年度が2,611人でした。
その他	-	◇2015(平成27)年度:音楽イベント1件[3,500人] ◇2016(平成28)年度:音楽イベント、横綱土俵入り、演劇、狂言など5件[計8,380人]

※上記の他、とよむ中城産業まつりが吉の浦公園、中城文化まつりが吉の浦会館、護佐丸歴史資料図書館で開催されています。



グスクへの誘い



青年エイサーまつり



グスクの響き祭り



プロジェクション
マッピング



横綱白鵬土俵入り



わかてだを見る集い



中城城ツブキまつり



沖縄花のカーニバル2017オープニングイベント



2017年初日の出観覧



新・幕末純情伝



クレイジーキャメル



野村万作・野村萬斎
中城狂言



世界遺産劇場
三浦大地/クレイジーキャメル



GOSAMARU CARNIVAL

◇上記以外にも、歌舞伎特別公演(市川海老蔵)やLIVEコンサート(Misia、山崎まさよし×秦基博、きやりーぱみゅぱみゅ)、お笑いフェス等、数多くのイベントが中城城跡で開催されています。



グスクヨガ

◇北中城村の主催イベントとして、「世界遺産で城ヨガ(爽朝・満月)」、「世界遺産で太極拳」が定期的に行われています。

◇2017(平成29)年8月に開催された太極拳には、約120人が参加しました。



資料：沖縄の世界遺産中城城跡ホームページ

②民泊

修学旅行生を対象としたふれあい体験プログラム(民泊体験)を行っています。

- 村内のNPO法人が主催し、2011(平成23)年度から「修学旅行ふれあい体験プログラム(修学旅行の民泊体験)」を受け入れています。
- 2016(平成28)年度現在、受入民家は44世帯で受入可能数は200名程度です。現在は、糸満市と分宿という形で受け入れを行っています。
- 中城村での受入人数は限られますが、申し込みは増加傾向にあります。

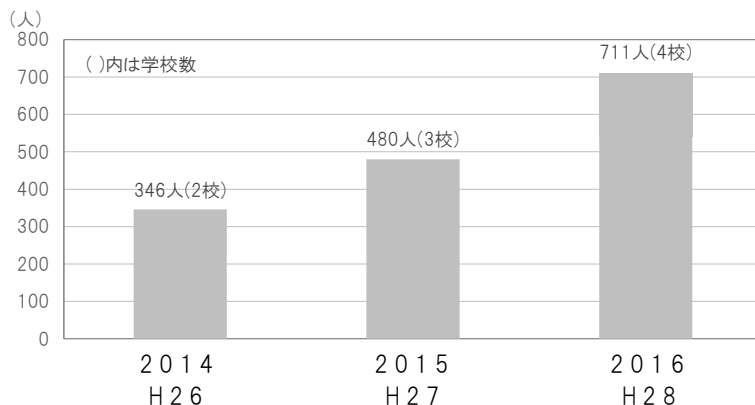


図 民泊体験受入人数の推移

資料：中城村企業立地・観光推進課提供データ

③サッカーキャンプ誘致

2013(平成25)年度からサッカーキャンプ誘致を継続し見学者も来訪しています。

- 2013(平成25)年度以降、ガンバ大阪をはじめとするサッカーチームのキャンプ誘致を継続しています。
- 見学者数は、誘致するチーム数、滞在日数により変動していますが、2016(平成28)年度は約7,600人が来訪しました。

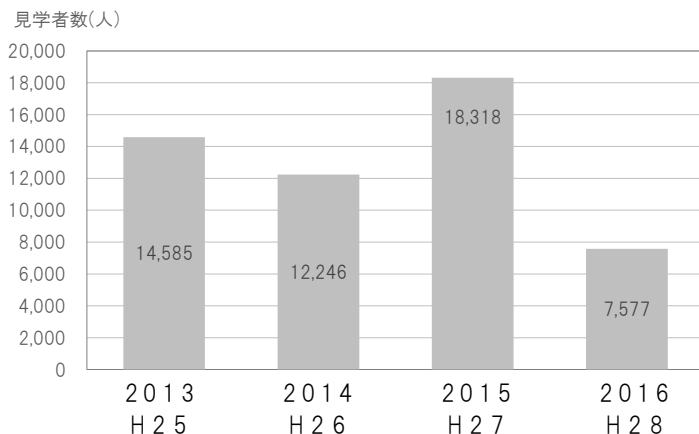


図 サッカーキャンプ見学者数の推移

資料：中城村企業立地・観光推進課提供データ

[2013(平成25)年度]2チーム

- ・ガンバ大阪:12日
- ・横浜FC:12日

[2014(平成26)年度]4チーム

- ・ガンバ大阪:9日
- ・川崎フロンターレ:8日
- ・徳島ヴェルティス:8日
- ・横浜Fマリノス:6日

[2015(平成27)年度]3チーム

- ・ガンバ大阪:7日
- ・川崎フロンターレ:10日
- ・横浜Fマリノス:8日

[2016(平成28)年度]2チーム

- ・ガンバ大阪:9日
- ・川崎フロンターレ:7日

④ふるさとと納税

2008(平成20)年度にふるさと納税を開始し、現在多くの寄附を受けています。

- 2008(平成20)年度にふるさと納税として寄附受付を開始しました。当時はお礼品の送付は行っていませんでしたが、2014(平成26)年度から4種類のお礼品の送付を開始しました。
- お礼品の種類を増やしていくとともに、2016(平成28)年4月から、ふるさと納税特設サイトの開設、外部ポータルサイトへの掲載を開始したことで、寄附件数と寄附金額が急増しました。
- ふるさと納税の取り組みは、村外への情報発信によって中城村を応援してくれる人を増やす効果があるとともに、村製品のPR効果にもつながります。

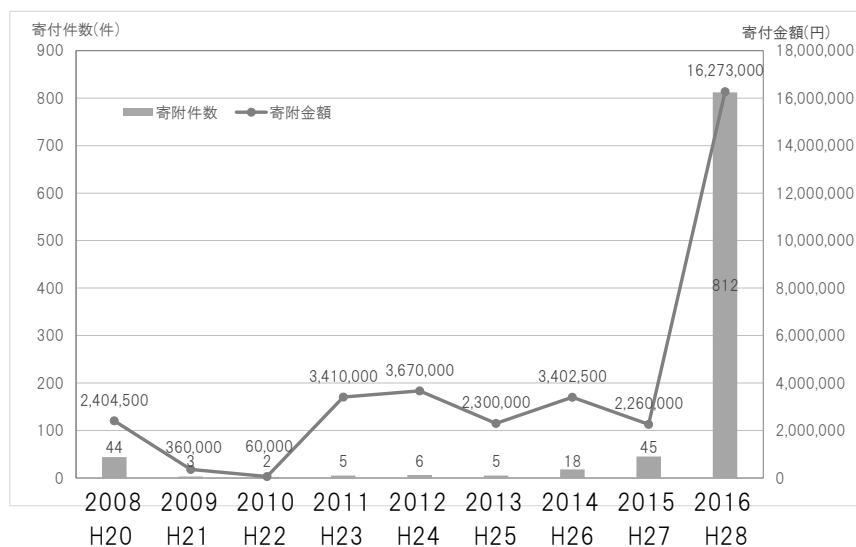


図 ふるさと納税の寄附件数と金額の推移

資料：企業立地・観光推進課提供データ



ふるさと納税の特設サイト

資料：中城村ふるさと納税特設サイト

⑤情報発信

ホームページや観光情報サイトの他、Facebookも活用し情報を発信しています。

- 観光に関する情報発信は、中城村のホームページ、観光情報サイト「とよむ中城」、Facebook、中城城跡オフィシャルサイトや7言語に対応した観光ガイドブック等で発信しています。
- 観光情報サイトやFacebookなどの訪問者数は、あまり伸びていない状況です。
- 主に中城城跡の観光PRビデオのCM放送や、護佐丸に特化した「護佐丸クロニクル」のTV放映などによる情報発信にも取り組んでいます。



中城村ホームページ



観光情報サイト「とよむ中城」



観光ガイドブック



護佐丸クロニクルのTV放映

資料：中城村ホームページ

⑥整備事業

各種事業により、観光関連施設の整備を行ってきました。

- 中城城跡の城壁修復、村内の遺跡発掘調査、ハンタ道整備、吉の浦海岸整備、公共駐車場整備など、観光関連施設整備を行ってきました。



中城城跡の城跡修復



ハンタ道整備



吉の浦海岸整備

3) 中城村の観光に携わる組織等

村の担当課をはじめ、さまざまな組織が観光に携わっています。

- 現在は、観光に係る各主体がそれぞれ取り組んでいますが、個々による活動が多いことから、今後はより一層の連携が望まれます。

表 村内の観光に係る組織等

主 体	取り組み等
中城村	◆企業立地・観光推進課を中心とし、観光イベント・祭りの開催、スポーツキャンプ誘致、観光パンフレット作成、特産品開発、ふるさと納税など、本村の観光振興に係る取り組みを行っています。
観光関連団体	◆中城村商工会・青年部・女性部、中城城跡共同管理協議会、沖縄県農業協同組合中城支店などの団体が、それぞれの業務を通じて、観光振興に係っています。
民間事業者	◆村内の観光関連事業者（飲食、イベント、体験等）がそれぞれの業務を通じて、観光振興に係っています。 ◆NPO法人が主体となって、高校生の民泊受け入れの取り組みを行っています。
村 民	◆中城村・北中城村文化財案内人サークル「グスクの会」や民泊の受け入れ家庭など、中城村ならではのおもてなしで来訪者と接する村民も見られます。 ◆「グスクの響き」など、村内の若者が積極的にイベントを開催し、賑わいを創出する取り組みも見られます。 ◆琉球大学観光産業科学部では、観光に係る公開講座をはじめとする、さまざまな地域連携活動を行っています。

2.3 住民、観光客等の実態調査からみる観光の現状

(1) 住民アンケート

観光に対する意識、観光への期待等の把握を目的としアンケートを実施しました。

■調査対象者：村内の全世帯7,940世帯(2017(平成29)年10月末現在の世帯数)

■回収数：710通(回収率8.9%)

※統計上、信頼度95%の結果が得られる367通を上回る回答が得られました。

■実施日：2017(平成29)年12月

【住民アンケートの結果概要】

- ①80%の村民が「中城村が好き」です。
- ②中城村の自慢は、「歴史・文化」、「自然」、「公園」、「朝日や星空」、「護佐丸」です。
- ③ゴミや雑草など、村の環境を改善すべきと考える村民が多くみられます。
- ④半数以上の村民が、村全体での観光振興は重要だと考えています。一方で、観光振興によって、生活環境の悪化を懸念しています。
- ⑤半数以上の村民が、地域環境美化で観光に関わる気持ちがあります。
- ⑥村民が重視する観光施策は、「中城城跡の保全・整備」、「公共交通の利便性向上」、「自然、文化の保全・整備」、「お土産品の開発」、「花いっぱいのもちづくり」です。
- ⑦自由回答では、観光振興を進めていくにあたってのアイデアが多く挙げられました。

1) 中城村への愛着

◇回答者の中城村への思いは、「好き」が45%、「まあ好き」が35%で、合わせて80%の村民が中城村を好きで、愛着を持っていることが伺えます。

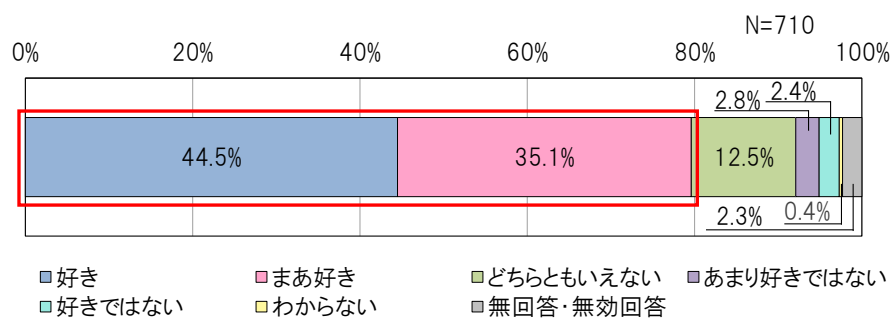


図 回答者の中城村への思い

2) 中城村のいい所や自慢（複数回答）

◇回答者が考える中城村の自慢は、「中城城跡や拝所などの歴史的・文化的な史跡」が最も多く60%、次いで「農村の風景や海が見渡せる風景」が42%、「中城公園や吉の浦公園などの公園」が32%、「朝日や夜の星空」が26%、「護佐丸の歴史」が22%です。

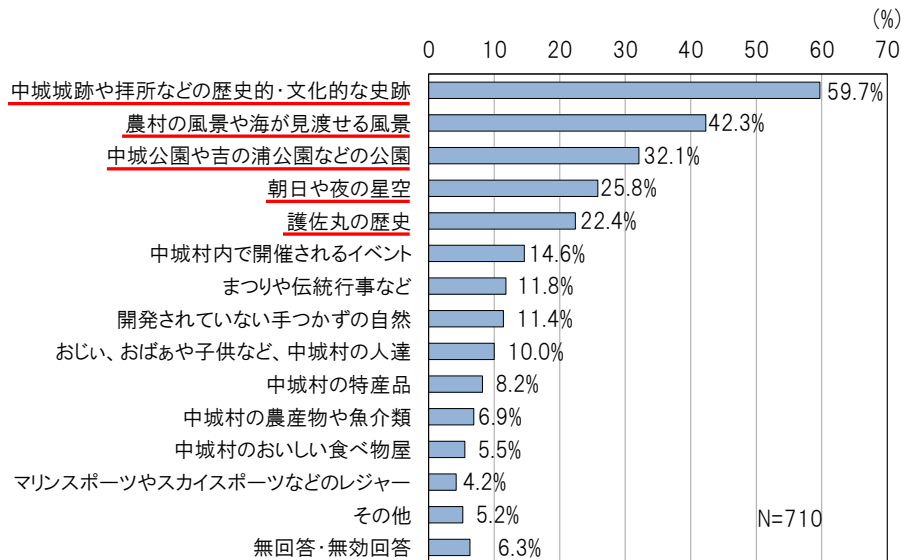


図 回答者が考える中城村の自慢

3) 直した方がよい所、見られたくない所（単一回答）

◇直した方がよいと思う所が「ある」が49%、「ない」が40%です。

◇自由回答では、ゴミや雑草など、村の環境を改善すべきと考える村民が多くみられました。

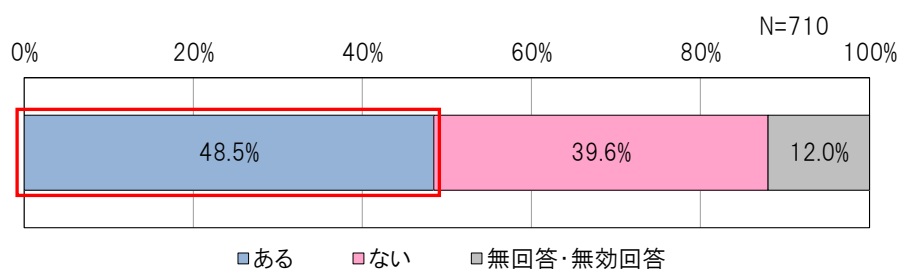


図 回答者が考える中城村で直した方がよい所

4) 観光振興の重要性（単一回答）

◇観光振興の重要性について、中城村全体では半数以上が重要だと考えています。

◇観光振興によって、「まちづくりが進む」が67%、「歴史・自然が保全される」が58%、「賑わいが向上する」が56%の村民がプラスの効果があると考えています。

◇一方で、「騒音やごみの投棄などによる生活環境の悪化」が55%、「交通渋滞等による交通が不便になる」が55%の村民がマイナスの影響があると考えています。

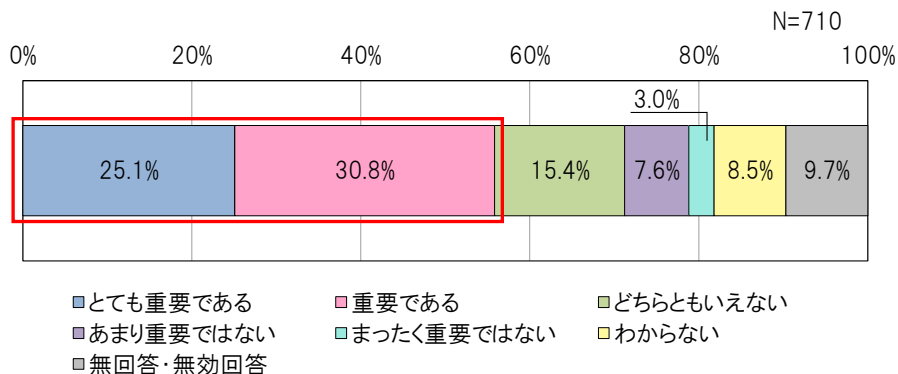


図 回答者が考える中城村における観光振興の重要性

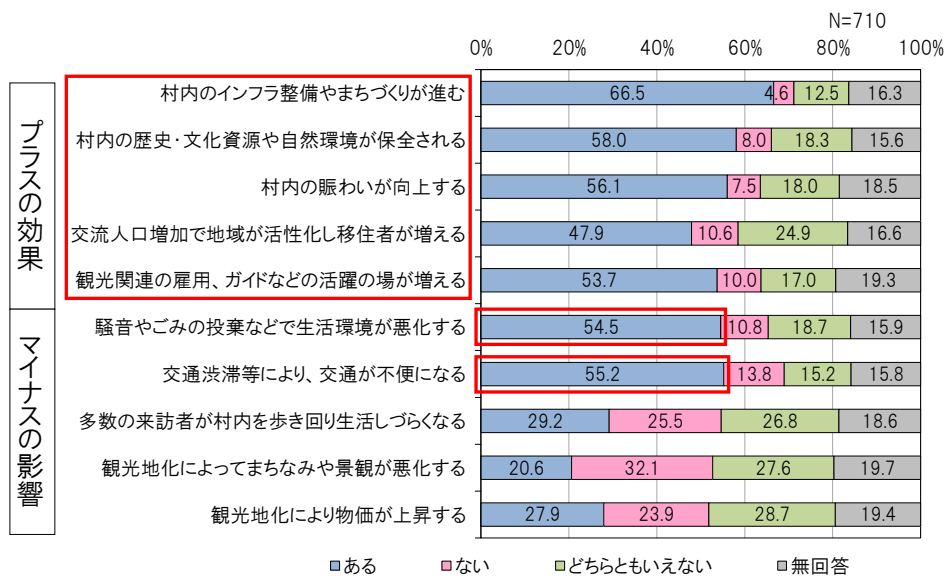


図 観光振興による生活環境への影響

5) 観光客が訪れるようになったときに自分が協力できること（複数回答）

◇観光客が訪れたときに、半数近い村民が「地域環境の美化」に取り組めると回答しています。また、40%の村民が「観光客へのあいさつ、道案内」に取り組めると回答しています。

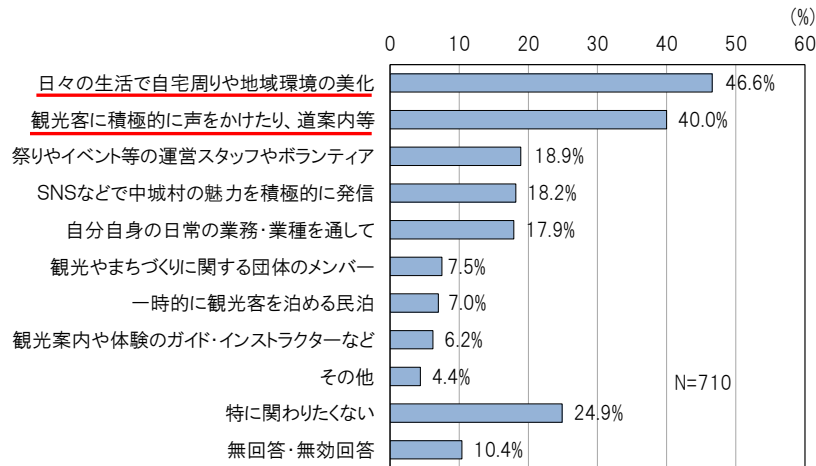


図 観光客が訪れたときに協力できること

6) 中城村の観光振興で取り組むべきこと（複数回答：5つまで）

◇回答者が考える中城村の観光振興で取り組むべきことは、「中城城跡の保全・整備・新たな活用」が最も多く39%、次いで「公共交通の充実・利便性の向上」が33%、「中城村の自然・文化の保全・整備・活用」が33%、「特産品や土産物の開発」が23%、「花いっぱいのもちづくり」が22%となっています。

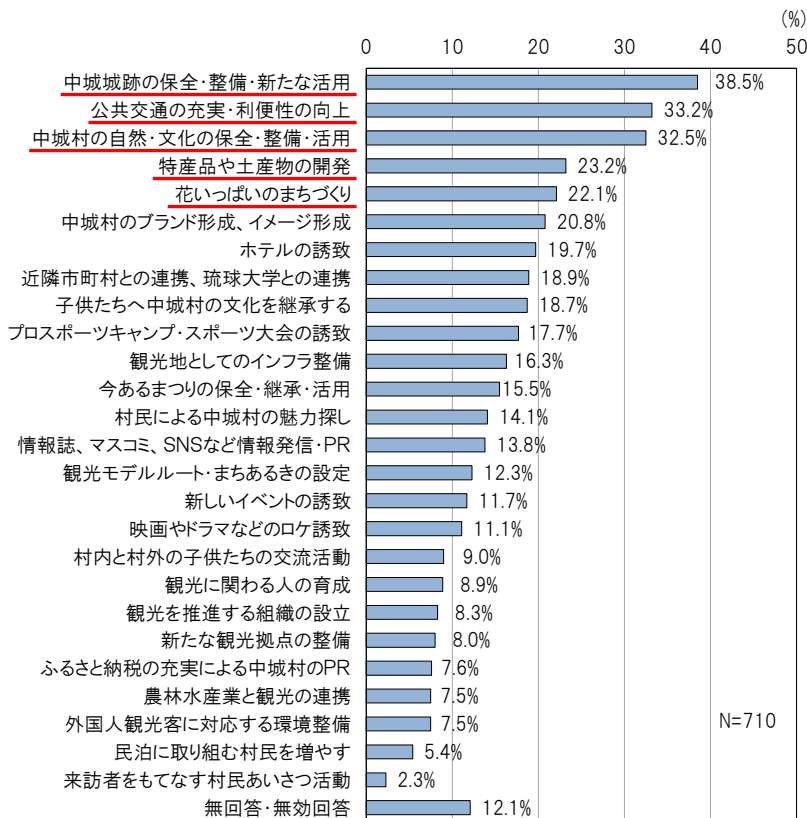


図 中城村の観光振興で取り組む必要があること

◇年齢別にみると、10歳代は「村民による中城村の魅力探し」、「中城村のブランド形成・イメージ形成」、「中城村の自然・文化の保全・整備・活用」の割合が高いのが特徴です。

◇「中城城跡の保全・整備・新たな活用」は年齢層が高くなるにつれて割合が高く、「ホテル誘致」や「花いっぱいのもちづくり」は50歳代を中心に割合が高くなっています。

◇「公共交通の充実・利便性の向上」は全年齢層とも同じくらいの割合です。

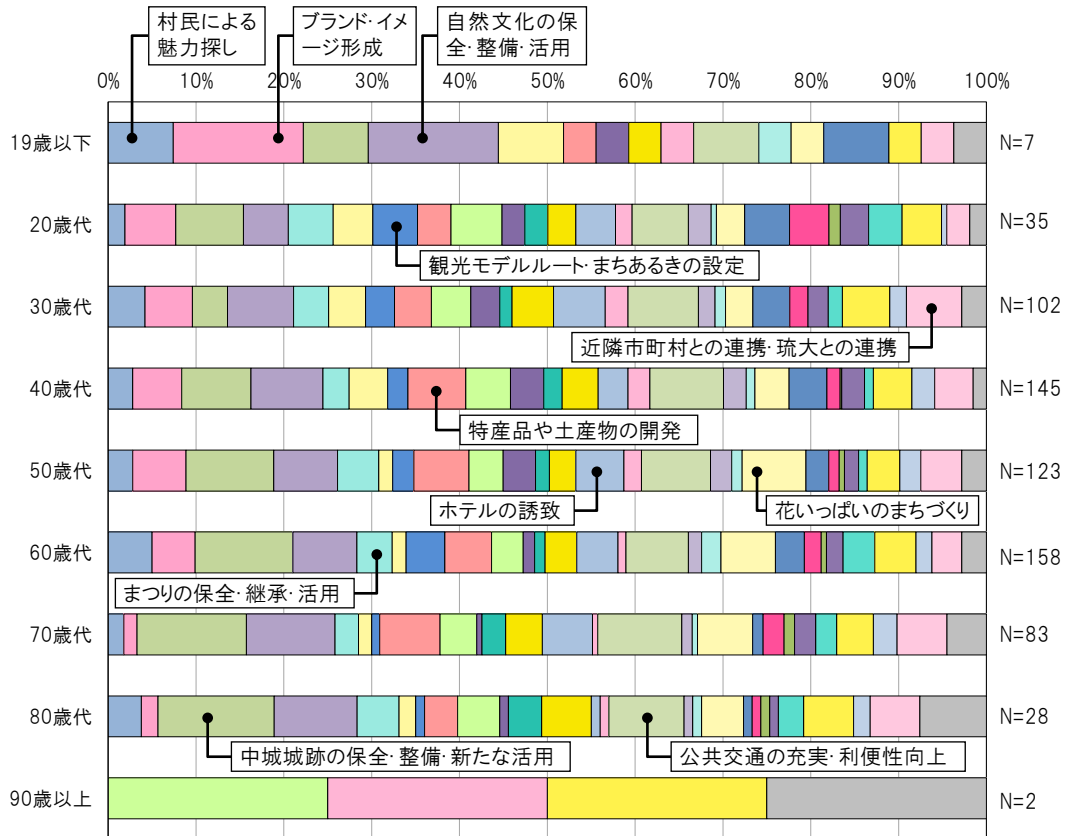


図 中城村の観光振興で取り組む必要があること（年齢層別）

7) 観光振興のアイデア、要望など（自由回答）

◇観光振興を進めていくにあたって必要だと考えることやアイデアが多く挙げられました。

- ・スポーツ合宿用の宿泊所誘致、ホテル誘致
- ・飲食店の充実、特産品開発
- ・観光ルートの設定
- ・食に関する取り組み、癒し・健康をテーマにした取り組み
- ・中城村のシンボルづくり
- ・村外へのPR・情報発信
- ・琉球大学との連携
- ・草刈りや街路樹整備等による環境美化 等

(2) 中学生アンケート

将来の中城村を担う子供たちの考えの把握を目的としアンケートを実施しました。

- 調査対象者：中城中学校の2年生141名
- 回収数：141通(回収率100.0%)
- 実施日：2017(平成29)年12月

【中学生アンケートの結果概要】

- ①80%の中学生が「中城村が好き」です。
- ②中城村の自慢は、「歴史・文化」、「伝統芸能」、「イベント」、「風景」です。
- ③ゴミや海が汚いなど、村の環境を改善すべきと考える中学生が多くみられます。
- ④7割近くの中学生が、中城村の観光振興は重要だと考えています。
- ⑤中学生が必要と考える観光の取り組みは、「新しいイベント」、「自然、文化の保全」、「フィルムコミッション」、「スポーツ振興」、「地域資源探し・磨き上げ」です。
- ⑥将来の中城村の姿として、「美しい自然や景観が守られた村」、「文化財や史跡が守られた村」、「観光が盛んで人が多く訪れる村」をイメージしています。
- ⑦自由回答では、10年後の中城村を想像して多くの夢が挙げられました。

1) 中城村への愛着

◇回答者の中城村への思いは、「好き」が45%、「まあ好き」が38%で、合わせて83%の中学生が中城村を好きで、愛着を持っていることが伺えます。

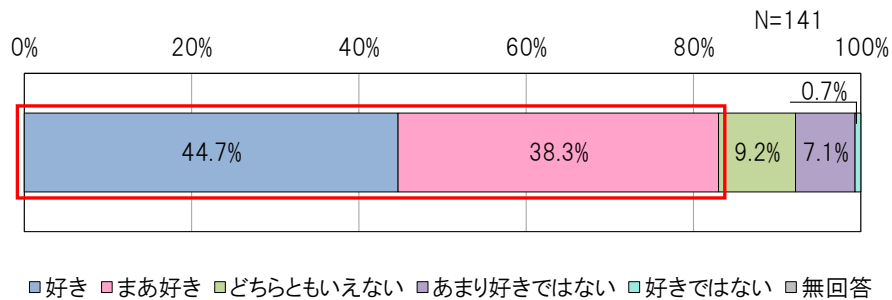


図 回答者の中城村への思い

2) 中城村のいい所や自慢（複数回答）

◇回答者が考える中城村の自慢は、「中城城跡や拝所などの歴史的・文化的な史跡」が最も多く53%、次いで「まつりや伝統行事など」が40%、「中城村内で開催されるイベント」が28%、「農村の風景や海が見渡せる風景」が22%、「朝日や夜の星空」が22%、「中城公園や吉の浦公園などの公園」が21%です。

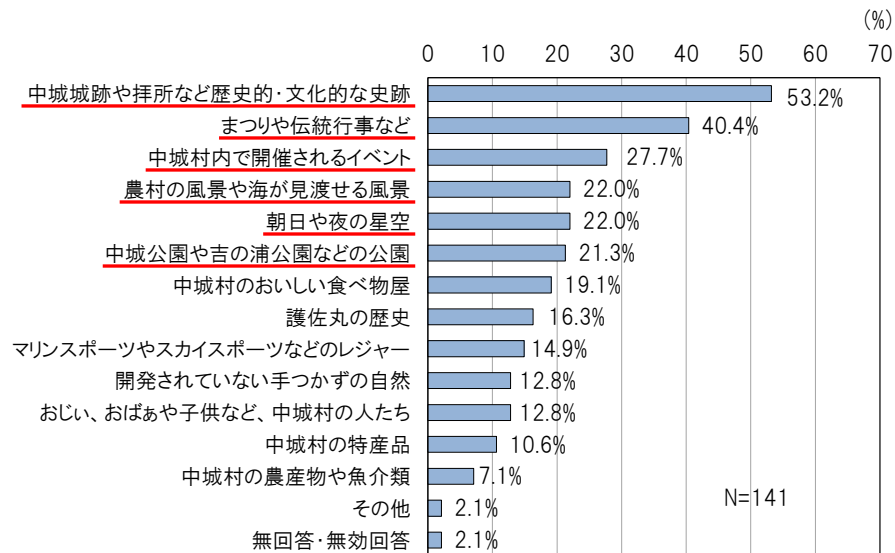


図 回答者が考える中城村の自慢

3) 直した方がよい所、見られたくない所（単一回答）

◇直した方がよいと思う所が「ある」が28%、「ない」が71%で、村民と比較して「ない」の割合が高い状況です。

◇自由回答では、ゴミや海が汚いなど、村の環境を改善すべきと考える中学生が多くみられました。

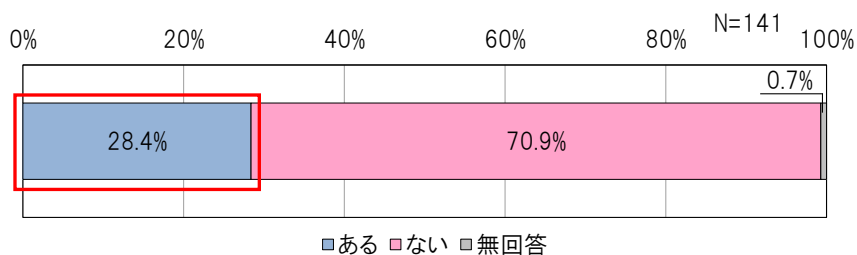


図 回答者が考える中城村で直した方がよい所

4) 観光振興の重要性（単一回答）

◇観光振興の重要性について、7割近くが重要だと考えており、村民と比較して「重要である」の割合が高い状況です。

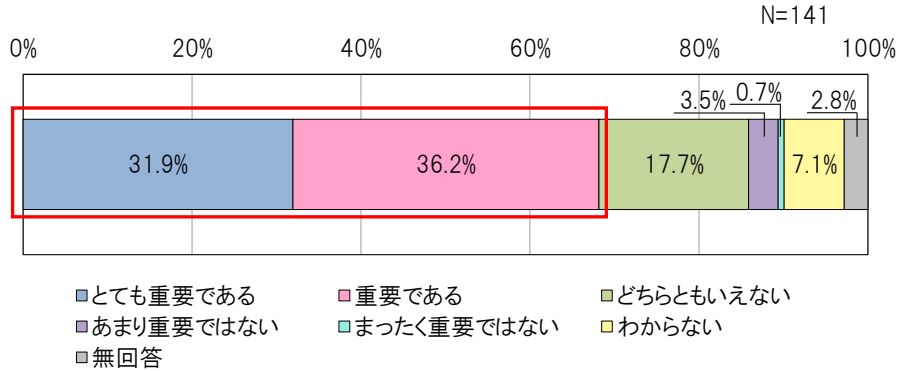


図 回答者が考える中城村における観光振興の重要性

5) 村外の人に来てもらえたり、注目されたりするために必要なこと（複数回答：3つまで）

◇中学生が考える中城村の観光振興で取り組むべきことは、「新しいイベントの開催」が最も多く60%、次いで「村の自然や歴史やお祭りなどを守り、来てもらおう」が38%、「映画やドラマなどのロケに来てもらおう」が36%、「プロスポーツキャンプ・スポーツ大会の開催」が28%、「いいところをみんなで探し、楽しみ方を考える」が23%、「特産品やお土産の開発」が23%となっています。

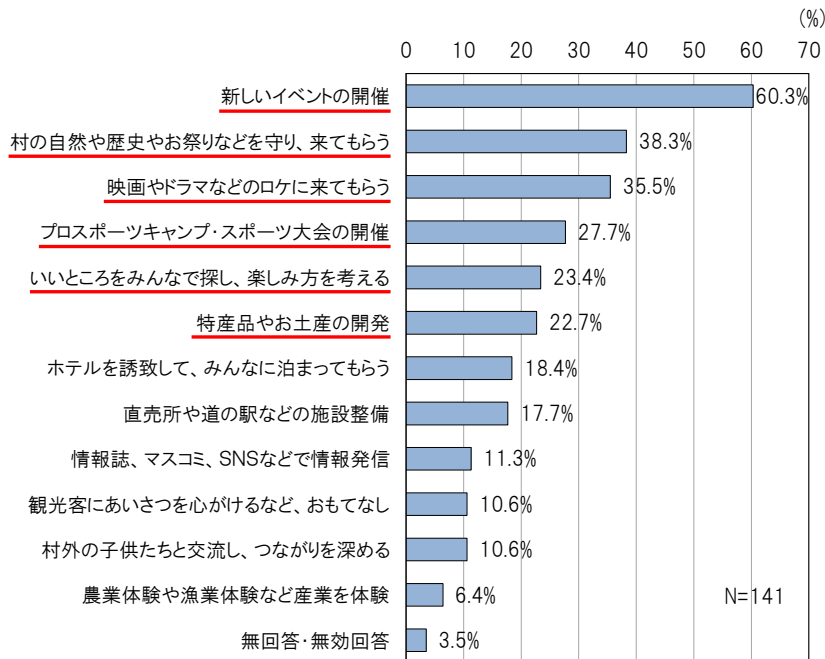


図 中城村で取り組む必要があること

6) 将来どんな村になっているとよいか（複数回答：3つまで）

◇「美しい自然や景観が守られた村」が65%で最も多く、次いで「文化財や史跡が守られた村」が45%、「観光が盛んで人が多く訪れる村」が43%です。

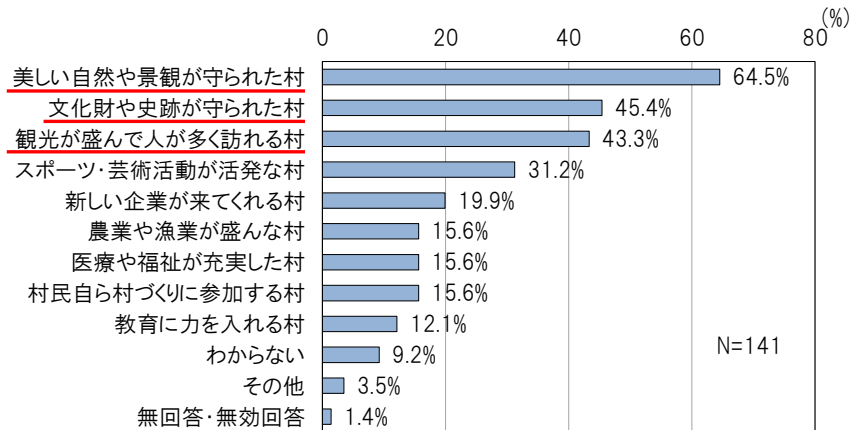


図 将来どんな村になっているとよいか

7) 10年後の中城村をどんな村にしたいか（自由回答）

◇10年後の中城村を想像して多くの夢が挙げられました。

- ・ 自然と観光の両立が取れたまち
- ・ みんなから愛されるまち
- ・ スポーツが盛んな村
- ・ 今と変わらない自然が残り農家が多いまち
- ・ みんながキレイだと感じるようなゴミのない村
- ・ 中城城と首里城を歴史の道でつなげる
- ・ 遊べる施設・ビーチを作ってほしい
- ・ 緑は残して少しだけ都会になっている村
- ・ 自転車専用道が欲しい 等

(3) 観光客アンケート

中城村の認知度、来訪経験、満足度、行動、中城村の観光に望むこと等の把握を目的として、観光客アンケートを実施しました。

■調査対象者：WEB調査会社の登録者(日本在住の20歳以上男女)

- ① 県外観光客で中城村来訪経験者(沖縄県在住以外の全国)
- ② 県外観光客で中城村来訪未経験者(沖縄県在住以外の全国)
- ③ 県内在住の中城村来訪経験者

■回収数：

- ・ 県外観光客で中城村来訪経験者 : 315件
- ・ 県外観光客で中城村来訪未経験者 : 394件 県外観光客小計 : 709件
- ・ 県内在住の中城村来訪経験者 : 367件 合計 : 1,076件

■実施日：2017(平成29)年12月

【観光客アンケートの結果概要】

- ① 沖縄県来訪経験者でも、中城村の認知度は低い方に含まれます。一方、中城村を知っている人の80%は、中城村を訪れています。
- ② 県外観光客は、夫婦での来訪が半数を占めています。
- ③ 県外観光客が興味・関心があるコトは、「自然・海」、「グルメ」、「歴史」、「保養・癒し」が上位です。
- ④ 県外観光客の中城村来訪経験者が体験した地域資源は、75%以上が「中城城跡」です。
- ⑤ 中城村の地域資源で県外観光客が興味を持っているのは、「沖縄そば」、「中城城跡などの世界文化遺産」、「海が展望できるカフェ」、「海、空、森林などの自然環境」、「古い集落や民家など沖縄らしい景観」です。
- ⑥ 県外観光客(中城村来訪経験者)が、中城村の地域資源で、知らなかったけど興味があるもの(GAPのある資源)は、「海が展望できるカフェ」、「朝日や星空」、「素朴な落ち着いた環境」、「中城村産の名物フード(加工品)」、「穴場的なビーチ」です。
- ⑦ 県外観光客が中城村の“食”に求めるものは、「海の見えるレストラン」、「沖縄の伝統的な料理(食文化)」、「海産物」などが上位で挙げられています。
- ⑧ 県外観光客が中城村の“お土産”に求めるものは、「農産物」、「ご当地食品」、「地酒」、「伝統工芸品」などが上位に挙げられています。
- ⑨ 県外観光客が中城村の観光に望むものは、「のんびりと過ごせる」、「今のたたずまいを活かした沖縄らしさ」、「まち歩き観光」、「自然やまちなみの保全」、「自然とふれあえる機会」などが上位に挙げられています。

1) 中城村の認知度

- ◇ 沖縄県に来訪したことがある人を対象とした中城村の認知度は、南城市、北中城村、西原町等とほぼ同じ25%（4人に1人）で、県内市町村でも低い状況です。
- ◇ 一方で、知っている人のうち79%が中城村に行ったことがあり、知っていればほとんどの人が来訪するという傾向から、認知度の向上は重要な取り組みであることが伺えます。

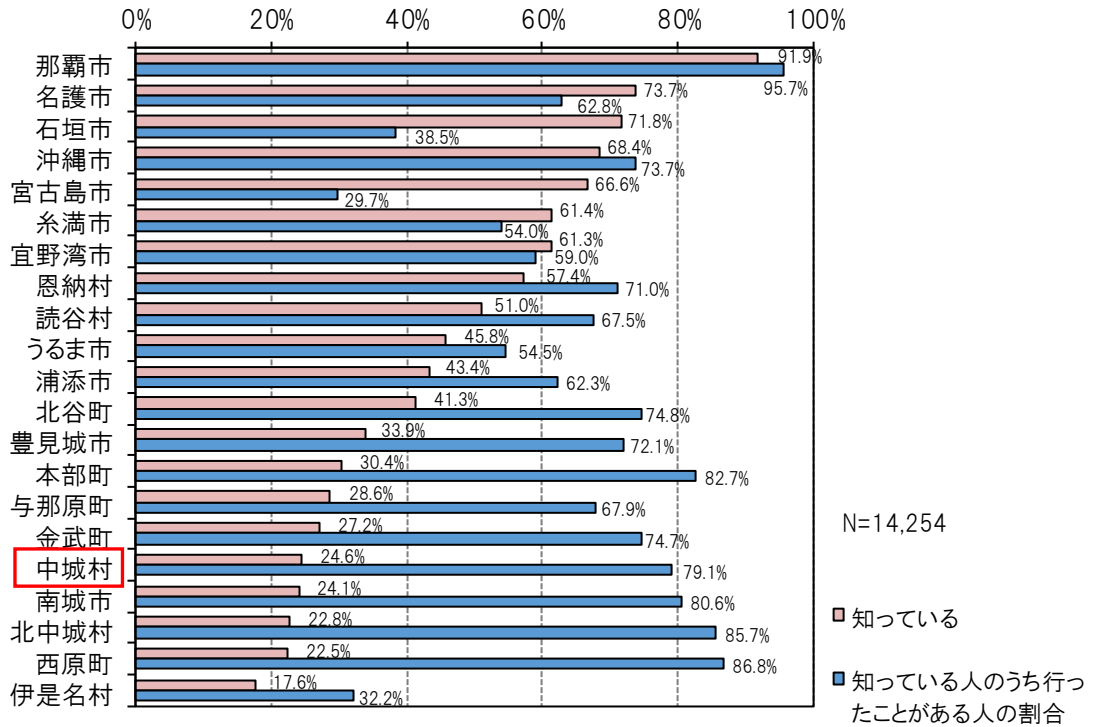


図 中城村の認知度と知っている人が来訪する割合

2) 同行者

- ◇ 沖縄県来訪者の47%は夫婦2人旅です。子供連れの来訪者も23%と2番目に高い割合となっています。
- ◇ 県外観光客のうち中城村来訪経験者の年齢層は50歳以上が約半数を占めます。
- ◇ “年齢層の高め”の“リピーター”、“夫婦”、“子供”などがターゲットのキーワードとして重要であることが伺えます。

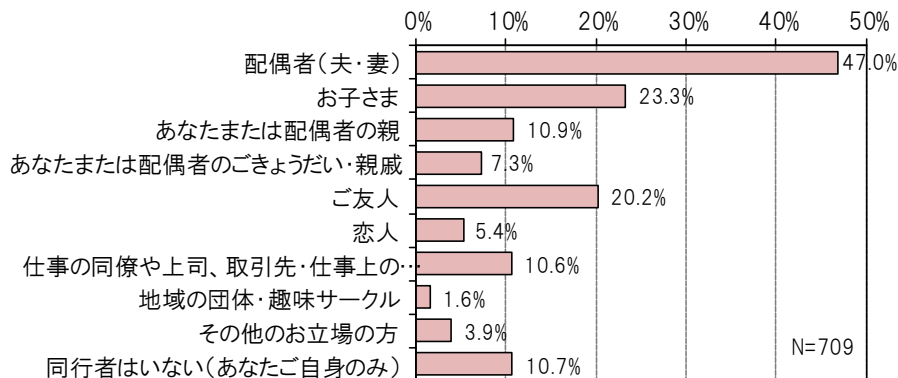


図 同行者(県外観光客)

3) 観光客が興味・関心があるコト

- 県外観光客が興味・関心あるコトは、「自然・海を楽しむ」が79%、「グルメを楽しむ」が72%、「歴史に触れる」が66%、「ゆっくりと保養・癒しを楽しむ」が61%です。60%以上の県外観光客がこれらに関心を持っており、実際にこれらのコトを行ってまいります。
- 中城村は、「歴史」、「自然・海」、「食・食材」、「のんびりとした空間」を有しており、観光客のニーズに合わせてうまく提供し、選ばれるための取り組みが重要であることが伺えます。
- 県内観光客で中城村来訪経験者は、上記の他に「イベントを楽しむ」ことにも興味・関心を持っています。県民を主対象としたイベントを継続して開催することも、交流人口を増やすためには重要な取り組みであることが伺えます。

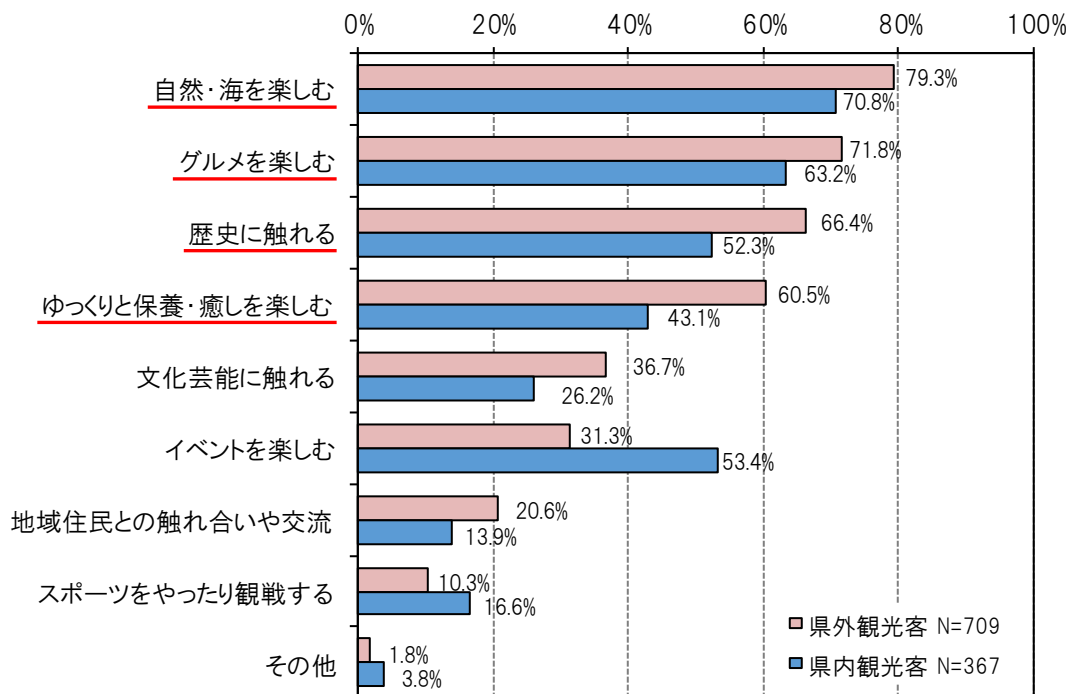


図 観光客が興味・関心があるコト

4) 中城村来訪経験者が体験した地域資源

- 中城村の来村場所は、75%以上が中城城跡です。逆に捉えると、来村者は必ず中城城跡に立ち寄ることから、そこから他の目的地にスムーズに誘導できるような仕組みづくりが重要だと考えられます。
- 上位に挙げられた「ビーチ(中城モール裏、吉の浦等)」(19%)、「中城パーキングエリア」(19%)、「県営中城公園」(15%)、「村内に点在する史跡や拝所」(14%)、「歴史の道(ハンタ道)」(12%)、「護佐丸歴史資料館」(7%)等と中城城跡をつなぐストーリーや道を作り出すことが、効果的な連携となることが伺えます。
- 県内観光客が体験した地域資源は、「中城城跡」(60%)、「ビーチ(中城モール裏、吉の浦等)」(33%)、「中城パーキングエリア」(22%)、「県営中城公園」(20%)、「吉の浦公園(吉の浦ごさまる陸上競技場)」(17%)です。
- 村内の祭りやイベントの体験率が低いことから、県民の体験を促進し賑わいを創出するような取り組みが重要であることが伺えます。

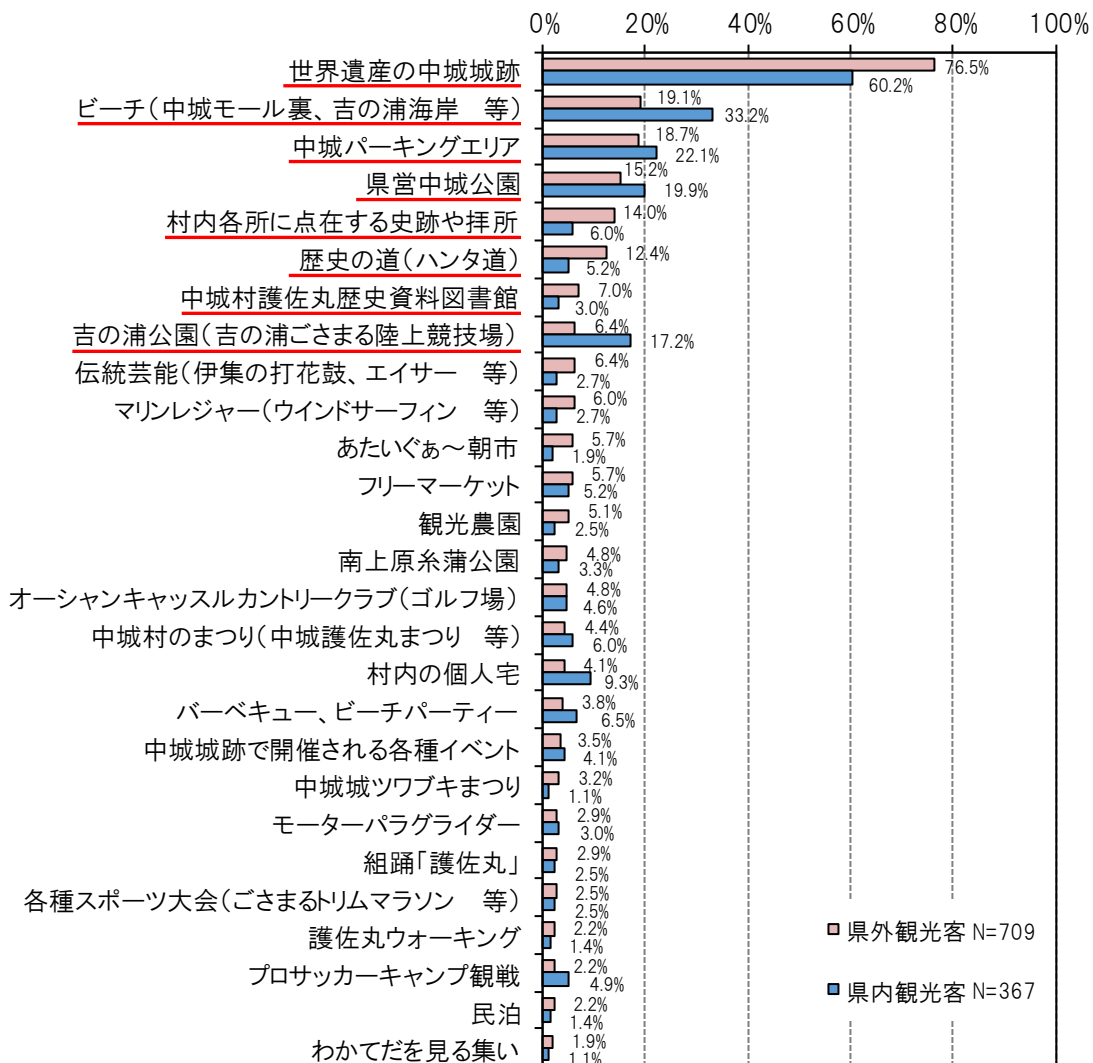


図 中城村来訪経験者が体験した地域資源

5) 中城村の地域資源で観光客が興味を持っているコト

- 県外観光客が興味を持った中城村の地域資源は、中城村来訪経験者も未経験者も「沖縄そば」、「中城城跡」、「海・空などの自然環境」、「海が見えるカフェ」、「沖縄らしい景観」です。
- これらの地域資源に着目して、磨いて活用していくことが有効的だと考えられます。
- 県内観光客は、県外観光客と同様の地域資源に興味を持っているとともに、「村産の果物や島野菜」や「中城村の祭り・イベント」、「村内の公園」などへの興味度が高いことが特徴となっています。

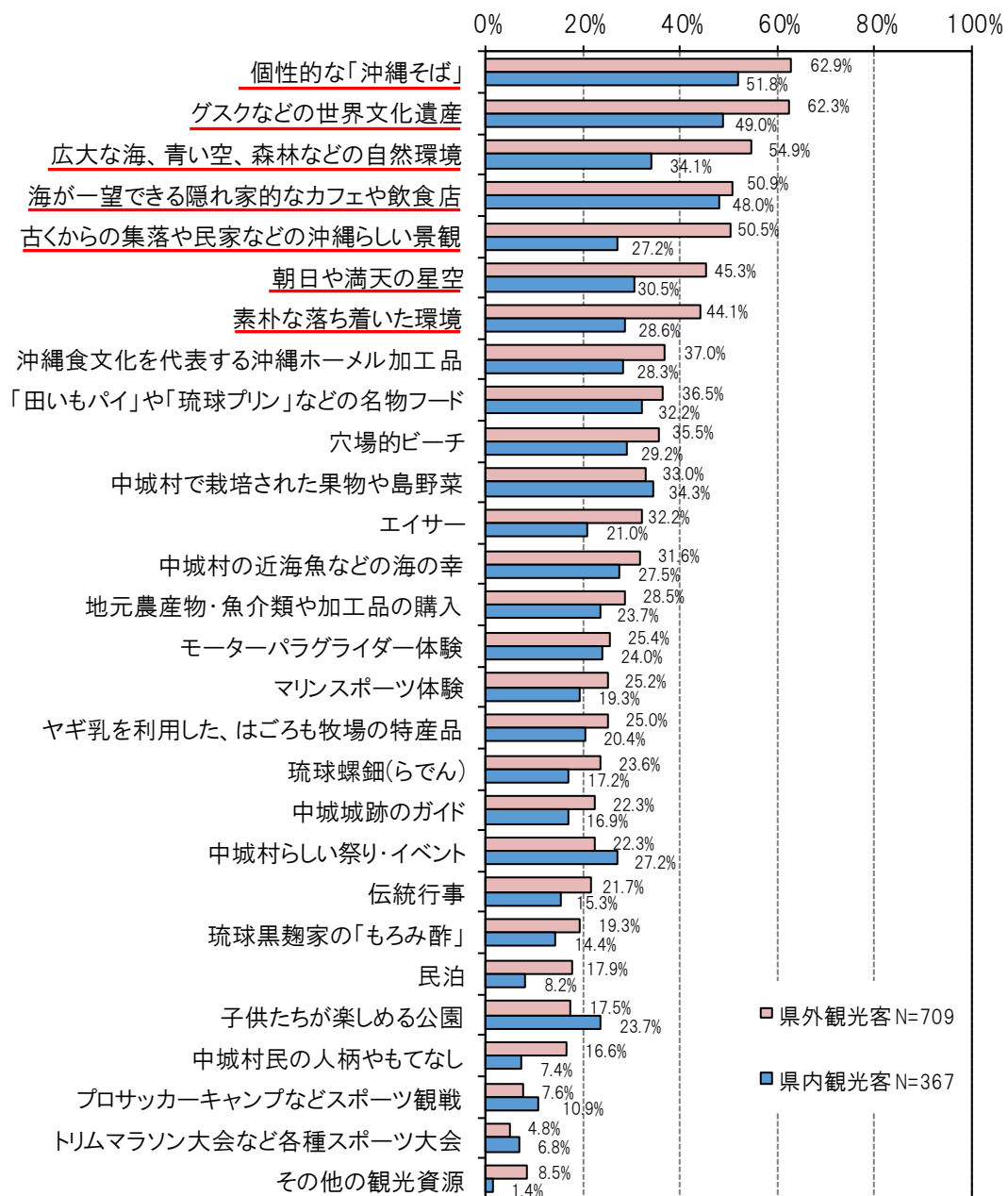


図 中城村の地域資源で観光客が興味を持っているコト

6) 中城村の地域資源で、知らなかったけど興味があるコト(GAPのある資源)

〔県外観光客(中城村来訪経験者)〕

□県外観光客(中城村来訪経験者)の認知度は低いに興味を持った地域資源は、「海が見えるカフェ」、「朝日や星空」、「素朴な落ち着いた環境」、「中城村産のフード(加工品)」、「海の幸」、「穴場的なビーチ」です。来訪者の期待を上回り、感動を与えるためには、これらの地域資源を効果的に活用することが重要であることが伺えます。

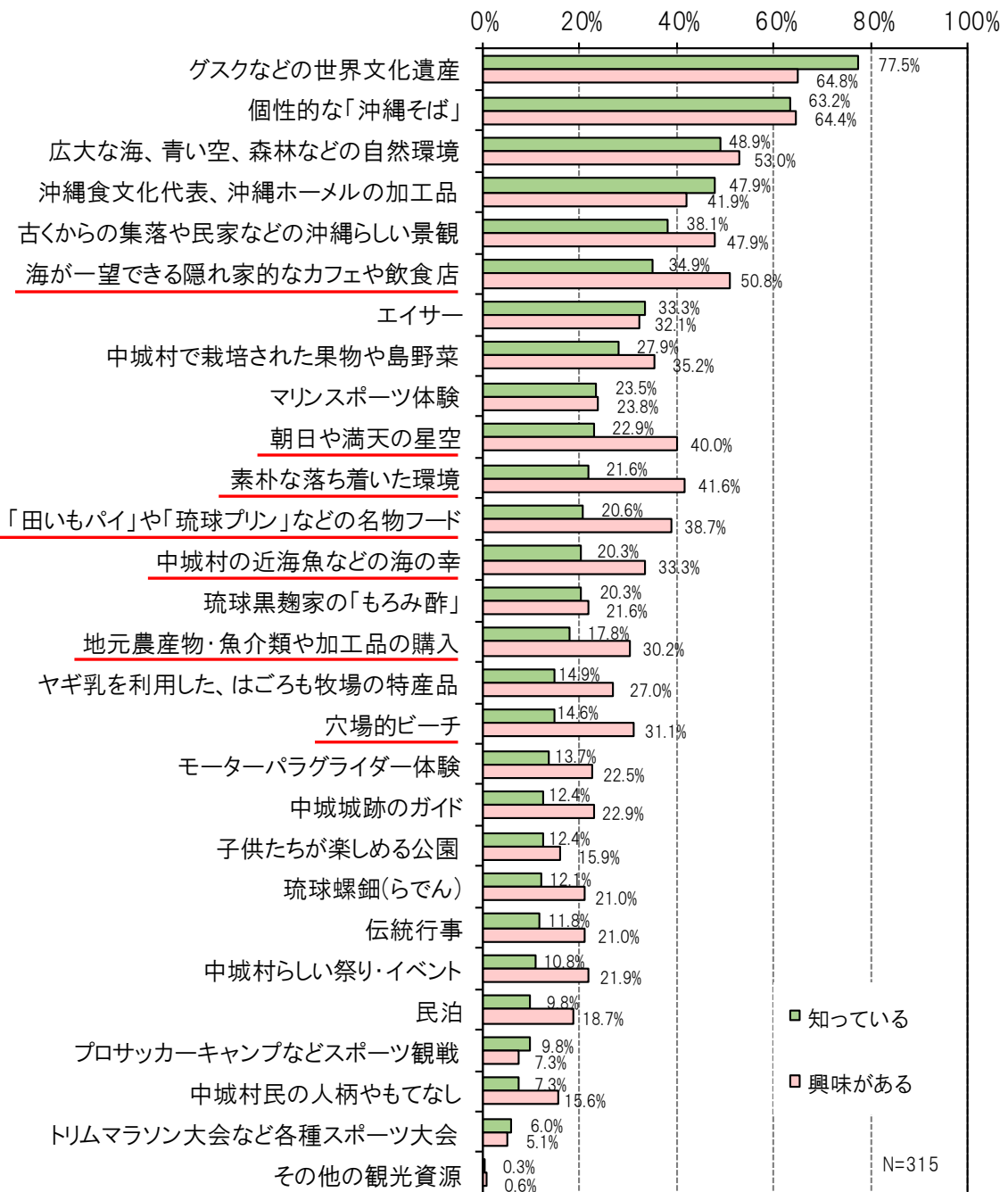


図 GAPのある地域資源(県外観光客(中城村来訪経験者))

〔県外観光客(中城村来訪経験なし)〕

□県外観光客(中城村来訪未経験者)の認知度は低いに興味を持った地域資源は、「グスクなどの世界文化遺産」、「広大な海、青い空、森林などの自然環境」、「古くからの集落や民家などの沖縄らしい景観」、「朝日や星空」、「海が見えるカフェ」、「素朴な落ち着いた環境」、「穴場的なビーチ」です。歴史・文化、自然と落ち着いたきのある雰囲気と海がキーワードになっていることが伺えます。

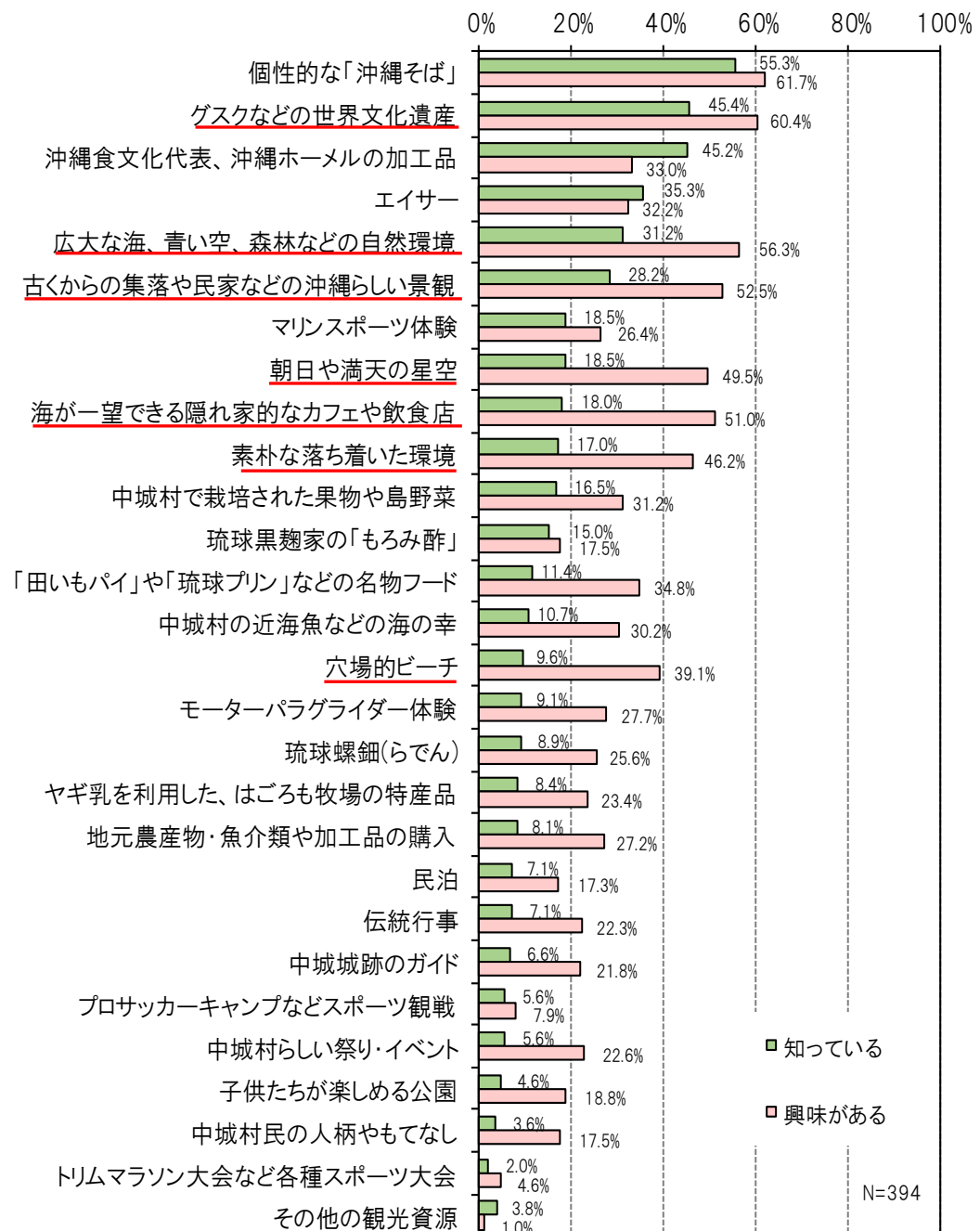


図 GAPのある地域資源(県外観光客(中城村来訪経験なし))

7) 観光客が中城村の“食”に求めるもの

- 県外観光客は、地元の食材(特に海産物)を使って、沖縄の伝統的な料理を海が見える雰囲気あるお店で食べることができると、県外観光客のニーズを満たすことが伺えます。
- この他に、「屋台や市場などおもしろい食事場所」(36%)や「お土産になるような食料品」(35%)に観光客のニーズがあることが伺えます。
- 県内観光客は「雰囲気」のよい食事場所へのニーズが高いことが伺えます。

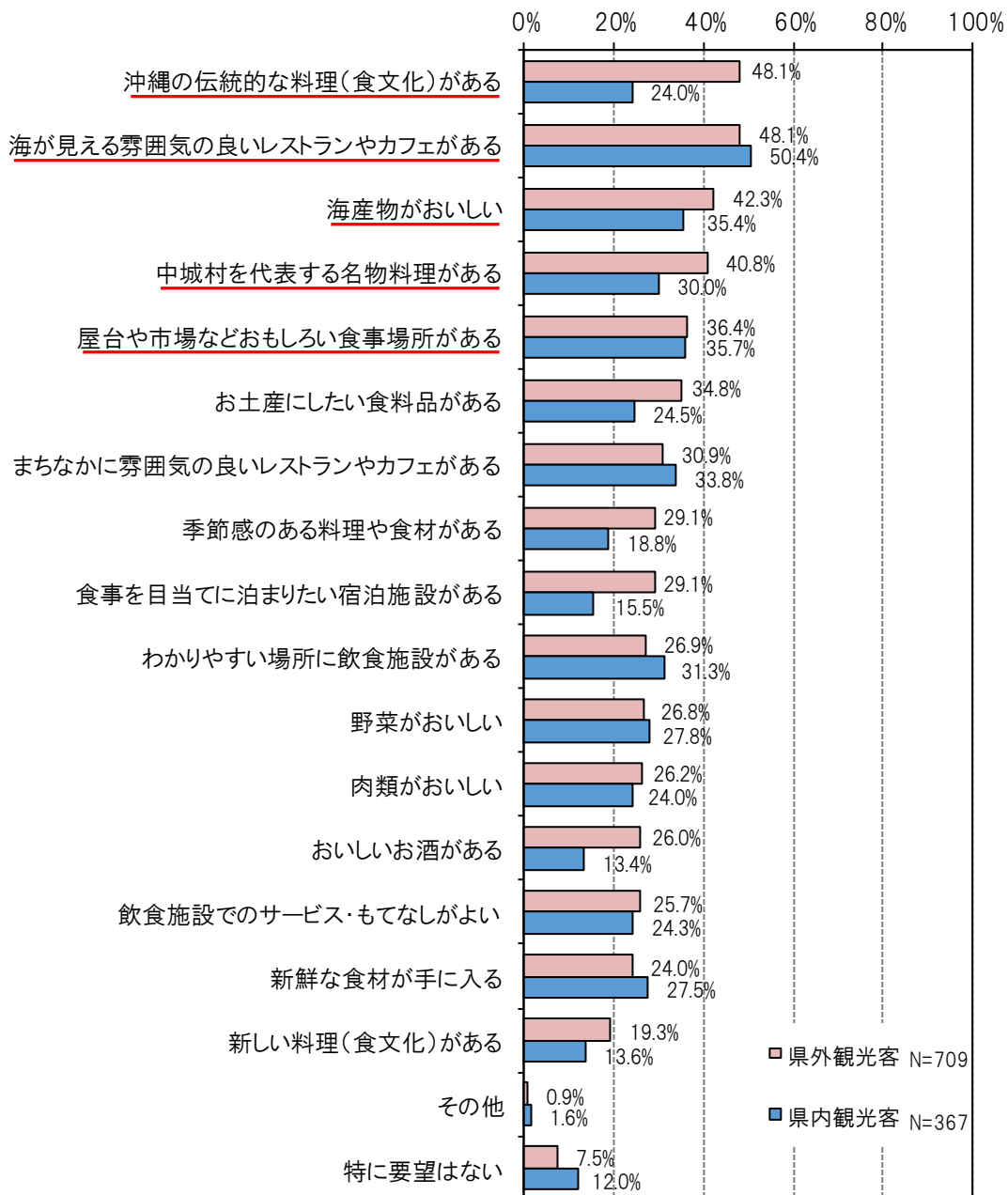


図 観光客が中城村の“食”に求めるもの

8) 観光客が中城村の“お土産”に求めるもの

- 県外観光客が求めるお土産は、食べ物：雑貨等＝7：3です。食べ物のうち「農産物(沖縄野菜やトロピカルフルーツ)」、「そば、タコライスなどのご当地食品」、「地酒(泡盛や地ビール等)」、「海産物」は40%近くの県外観光客がお土産として求めています。
- 雑貨としては、「伝統工芸品(琉球螺鈿、シーサー(やちむん)等)」を約30%の県外観光客がお土産として求めています。
- 「お土産自体を買わない」は8%程度であることから、ほとんどの県外観光客からお土産は求められており、ニーズを捉えたお土産品開発が重要であることが伺えます。
- 県内観光客は、約30%が「洋菓子」をお土産として求めています。

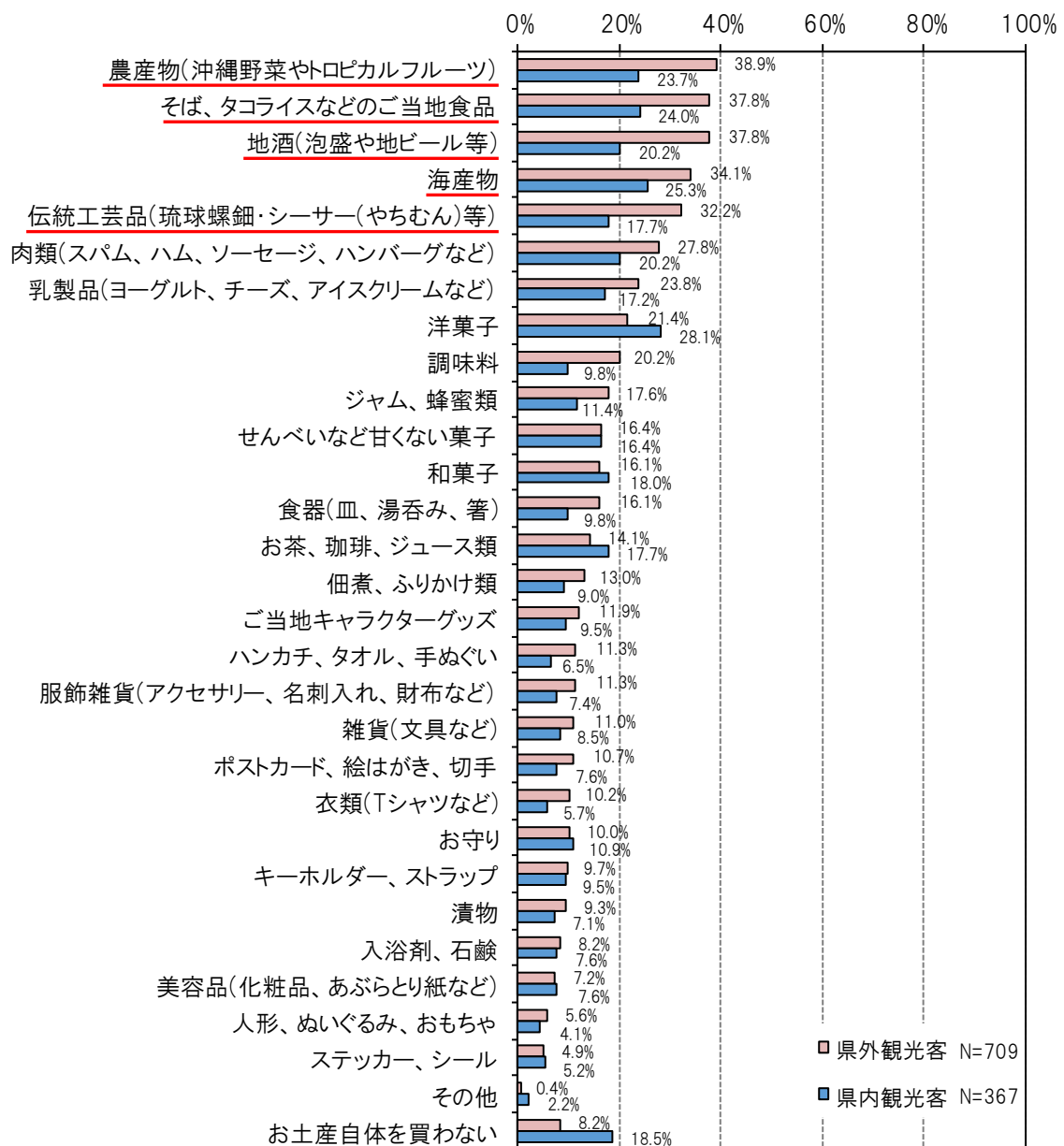


図 観光客が中城村の“お土産”に求めるもの

9) 観光客が中城村の観光に望むもの

- 県外観光客のニーズは、「のんびり」、「沖縄らしさ」、「今の自然やまちなみ」、「自然や暮らしとのふれあい(まちあるき)」などをキーワードとした取り組みやまちなみであることが伺えます。
- この他にも、「地域食材を使った飲食店」(36%)、「交通の利便性向上」(32%)、「おしゃれなカフェやレストラン」(31%)、「朝日を浴びるスポット」(26%)、「夜の静けさを楽しむスポット」(26%)、「お土産や特産品、加工品」(26%)、「観光案内所や看板」(25%)、「情報発信」(24%)、「直売所での買い物」(23%)、「観光ルート」(22%)などが望まれています。
- 今ある自然や雰囲気を強みとして活かしながら、サービス提供、情報発信に取り組むことが重要であることが伺えます。

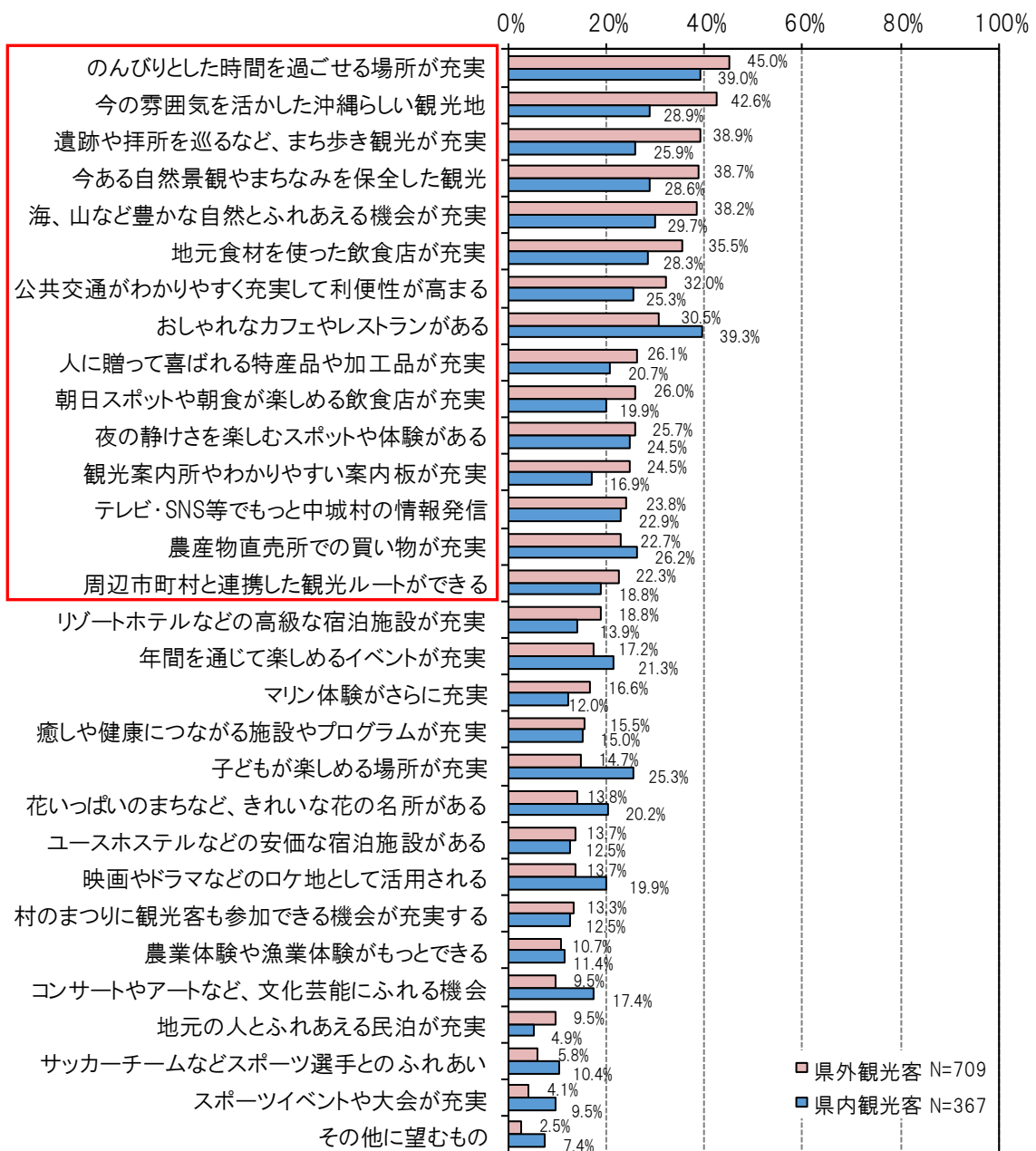


図 観光客が中城村の観光に望むもの

3. 中城村の観光振興の課題

3.1 観光振興に係る現状分析(SWOT分析)

- 観光を取り巻く社会情勢、中城村の観光動向、中城村の地域資源、観光客意識調査、観光関連機関聞き取り調査、これまでの観光振興の取り組み等をふまえて、中城村の強み、弱みを抽出します。
- また、外部要因として機会、脅威を抽出しSWOT分析で現状整理するとともに、クロスSWOT分析で中城村の観光の課題を整理します。

(1) SWOT分析とは

- SWOT分析とは、組織のビジョンや戦略を企画立案する際に利用する、現状の分析手法の一つです。強み(Strength)のS、弱み(Weakness)のW、機会(Opportunity)のO、脅威(Threat)のTの頭文字を取りSWOTといいます。
- S/W/O/Tの各要素は、「内部要因」と「外部要因」に大きく分けられます。
 - ・内部要因：自分たちで主体的に解決できる要素であり、強み(S)と弱み(W)にあたります。
 - ・外部要因：自分たちではどうすることもできず、周辺環境として受け入れざるを得ない要素(政治動向、規制、経済・景気、社会動向、技術動向、環境の変化等)であり機会(O)と脅威(T)にあたります。

《SWOT分析の表》

《内部要因》 ・人・組織、地域資源、情報、ノウハウ等	S 強み	W 弱み
《外部要因》 ・法律、制度 ・消費者ニーズ等	O 機会	T 脅威

(2) 強み、弱み、機会、脅威とは

- ◆強み：中城村の観光振興にとってプラスとなる中城村の武器
- ◆弱み：中城村の観光振興にとって弱点となること、苦手なこと
- ◆機会：中城村の観光振興にとって活用すればチャンスとなる外部の要因
- ◆脅威：中城村の観光振興にとって放置しておくマイナスとなる外部の要因

(3) SWOT分析(案)

- SWOT分析(案)として、抽出した内部要因(「強み」、「弱み」)及び外部要因(「機会」、「脅威」)を次頁に示します。

内部要因	<p>強み(Strengths)</p> <p>①東部一面に広がる青い海・空(自然・景観) ◆県外観光客の沖縄旅行の誘因は『沖縄の海』 ◆台地から望む海・まち並み、眺望を活かしたカフェ</p> <p>②世界遺産「中城城跡」と石畳のハタ道(歴史) ◆「グスク+集落跡+歴史の道」のセットは中城オンリー ◆石畳、綱引き、古民家など、引き継がれる文化</p> <p>③豊富で多様な資源を有している(地域資源) ◆自然・景観・歴史・祭り・食など、現時点では埋もれているが多くの地域資源を有している ◆都市近郊型の農業振興地域として農業が盛ん</p> <p>④那覇空港から約30分の好アクセス(交通) ◆自然(海・緑地・農地)、歴史のセットが約30分圏内 ◆農地が保全され周辺市町村と趣が異なる(農) ◆静かな雰囲気ある集落が残された村(暮らし)</p> <p>⑤人が増え、賑わいある村(交流) ◆人口が増加中の“村”(H29:2万人超) ◆琉球大学立地、沿岸部の新しいまちづくり計画 ◆民泊・農作業体験など村民主体の取り組みもある ◆「グスクの会」、民泊の受け入れ家庭など、観光に係る人材がいる、村民の観光振興に対する期待</p> <p>⑥新しいことに取り組む機運、交流人口の増加 ◆中城城跡を活用したイベント、プロサッカーキャンプの誘致など、新たな取り組みへのチャレンジ ◆これらの取り組みによる交流人口の増加</p>	<p>弱み(Weakness)</p> <p>①中城村自体、村の地域資源の認知度が低い ◆中城村独自のイメージがない、情報発信が弱い、中城村でどんなことをしてほしいのか観光客へのメッセージ発信が乏しい ◆来訪者が立ち寄らず、素通りが多い</p> <p>②集客可能な施設・イベントに限られる ◆中城城跡・中城公園、一時的なイベント、プロサッカーキャンプ、南上原地区などに人は集まっているが、少なく、他の地域資源への展開がない</p> <p>③村内で歓迎の雰囲気が乏しい ◆雰囲気あるまちなみ、印象に残る並木道、わかりやすい案内板があるなどによる、来村者の期待を上回る雰囲気、歓迎の雰囲気が乏しい ◆団体客対応の宿泊施設がなく滞在客がほとんどいない、民泊の受け入れ家庭の伸び悩み</p> <p>④観光を牽引する組織がない ◆観光協会など、村の観光を専門に推進していく機動力のある組織がない</p> <p>⑤観光に関連するデータが少ない ◆中城城跡やイベントの来場者数、民泊数など、基礎データの収集が遅れている</p>
	外部要因	<p>機会(Opportunities)</p> <p>①立地条件に恵まれている ◆沖縄自動車道北中城IC、西原IC、主要国道329号、那覇空港から約30分)</p> <p>②沖縄観光客の増加、近隣市町村での整備計画 ◆堅調な観光客数増、特にアジア圏からの外国人 ◆大型MICE、大型クルーズ船、モノレール延伸、中城湾泡瀬整備、浦添第一ステージ等、中城村周辺施設の整備の充実 ◆東京オリンピック開催など、日本人気の高まり</p> <p>③観光客のニーズの多様化、リピーターの増加 ◆旅行者の旅行目的、ニーズの多様化、国民の自然志向の浸透、健康ブーム、文化観光の人気 ◆車による移動者の増加(旅行者の移動手段の51%がレンタカー、沖縄県1世帯当り自動車保有台数の増加) ◆沖縄来訪者の8割がリピーター、中城村を知っている人が来村する割合は7割と高い</p> <p>④情報発信の多様化、影響力の高さ ◆情報通信技術の飛躍的な発展(Twitter、Instagram等) ◆個人による世界への情報発信、個人の情報への共感、影響力の高さ</p>

3.2 観光振興の課題整理(クロスSWOT分析)

(1) クロスSWOT分析とは

- クロスSWOT分析とは、SWOT分析で整理した「強み」、「弱み」、「機会」、「脅威」を右図のようにクロスさせ、対応すべき課題(案)を抽出します。
- 外部環境(機会・脅威)の変化に対応し、中城村の内部要因(強み・弱み)を分析しながら、中城村の地域の成長と発展のために、自らやるべきこと・ビジョン(将来像)・戦略課題を導くための手法です。

(2) クロスの考え方

《クロスSWOT分析における組合せ別の主な検討ポイント》

組合せ	戦略の方向性	主な検討ポイント
強み×機会	積極的攻勢	■「強み」によって「機会」を最大限に活用するために取り組むべきことは何か？
強み×脅威	差別化戦略	■「強み」によって「脅威」による悪影響を回避するために取り組むべきことは何か？
弱み×機会	段階的施策	■「弱み」によって「機会」を逃さないために取り組むべきことは何か？
弱み×脅威	防衛的施策	■「弱み」と「脅威」による状況の悪化を回避するために取り組むべきことは何か？

(3) クロスSWOT分析(案)

- クロスSWOT分析(案)を以下に示します。

	強み (S) ①～⑥	弱み (W) ①～⑤
機会 (O) ① ④	◎中城村の地域資源の魅力の掘り起しが必要 ◎中城城跡以外でも賑わいの創出が必要	◎中城村のイメージ形成が必要
脅威 (T) ① ⑥	◎訪れてよし、住んでよしの地域づくりが必要	◎村外や海外に向けた積極的な情報発信が必要 ◎中城村の観光を牽引する組織、人の育成が必要 ◎来訪者の目線に立った受入体制の構築が必要

1. 来訪先が中城城跡 1箇所 に偏っています

- ◇これまでの中城村の来訪者数は、本村を訪れた県外観光客の約8割が立ち寄る「中城城跡」に支えられています。中城城跡を活用したイベント誘致を積極的に行ってきた効果もあり、来場者は増加傾向で中城村の最大の「強み」といえます。一方で、県外観光客は、中城城跡以外の地域資源にはほとんど行っていないことが、アンケートより明らかになっています。
- ◇このような観光は、「中城村といえば中城城跡」というイメージを形成することには有利に働いてきましたが、中城城跡以外の楽しみについては来訪者に情報がほとんど伝わっていないことから、地域に波及しない“そこだけ観光”になってしまっています。
- ◇これからの観光は、中城城跡を核としながら他の地域資源の魅力にも触れてもらうために、中城村の地域資源の魅力について、どのように気づき、どのように伝えていくかが課題となります。

《課題解決の視点》 『中城村の地域資源の魅力の掘り起し』

- ◇近年は、来訪者が評価する地域資源が、“普段の何気ない風景”、“素朴な住民との交流”、“地元の食材”、“のんびりした村の雰囲気そのもの”などへと大きく変化しており、本来「観光」が持つ“その地域の優れたもの(特色)を観る”という意味に来訪者のニーズがシフトしているといえます。
- ◇来訪者に“地域の優れたもの”を楽しんでもらうためには、まずは自分たちが住む村のことを掘り下げ、どのような魅力があるか理解することが必要です。この“村の魅力探し”を大人から子どもまで村全体で取り組んでいくことによって、村民の皆が地域への愛着を育むことにつながるとともに、自分たちの地域を知ってもらいたい、見てもらいたいという気持ちの醸成にもつながります。

《課題解決の視点》 『中城城跡以外でも賑わいを創出』

- ◇中城村には、多くの祭り、イベントがあり、既存の取り組みについては今後も継続して開催し、賑わいづくりを行うことが必要です。また、近年取り組んでいる中城城跡を活用したイベントやプロサッカーキャンプ誘致など、本村には交流人口の増加につながる成功事例があります。
- ◇“そこだけ観光”から、地域に波及する“周遊観光”への展開を図るため、中城村の魅力ある地域資源を活用し、中城城跡以外の地域においても、さまざまな所で賑わいづくりに取り組むことが必要です。
- ◇中城村は人口が増加しているという強みがあるとともに、観光の専門学科をもつ琉球大学も有し、留学生も受け入れており、多様な人材が集まる村といえます。賑わいづくりは、“住んでよし”の地域づくりにつながることから、人材が豊富であるという強みを活かし、村民が主体となって行政と連携し、まずは自分たちが楽しむという視点で参加し、活動していくことが、継続した取り組みにつながります。

2. 中城村のことを知っている人が少ない状況です

- ◇沖縄県を訪れたことがあっても「中城村」を知っている人は4人に1人であり、中城村自体の認知度が県内の他市町村と比較しても低いことがアンケートより明らかになっています。
- ◇また、中城村を知っていても行ったことがない人は、その理由として“行くきっかけがないから”、“何があるか知らないから”、“情報が少ないから”などを挙げており、中城村で何ができるか、情報も得られないしイメージもできない、といった状況になっていることが想定されます。
- ◇これからは、中城村自体、中城村の地域資源、楽しみ方を知ってもらうために、中城村の特徴を強く印象付けていくことが課題となります。

《課題解決の視点》 『中城村のイメージ形成』

- ◇中城村の東側一面に広がる「海」と、「緑」豊かな斜面緑地の自然環境や農地の広がり、歴史的・文化的資源や集落と一体となって存在していることが中城村らしい景観、空間を生み出しています。
- ◇アンケート結果から、観光客は沖縄旅行に対して「歴史」、「自然・海」、「食・食材」、「のんびりとした空間」などに興味・関心を持っていることが伺えます。
- ◇中城村らしさと観光客のニーズから、特に「中城城跡」、「海」、「食」、「のんびり」など、中城村の強みといえる地域資源を“村のイチオシ”として重点的に活用していくことで、中城村のイメージを形成していくことが必要です。「中城村といえば〇〇」というイメージは、中城村自体を知ってもらうとともに、目的をもって“中城村に行ってみよう”と思わせる動機づけにつながります。

《課題解決の視点》 『村外や海外に向けた積極的な情報発信』

- ◇ふるさと納税の寄附件数が、村外への情報発信を積極的に行ったことで急増したことからも、中城村の地域資源は、“その魅力に気づいてもらえれば受け入れてもらえる”ことが伺えます。
- ◇村内の地域資源を掘り起こして磨き上げ、中城村ならではの魅力として村外や海外に向けて積極的かつ効果的に情報を発信することによって、知ってもらう、興味を持ってもらうことが必要です。
- ◇近年は、SNSを使って個人が面白いと思ったことをその場から広く発信するようになっていることから、来訪者自らが発信したいと思うようなモノづくり、コトづくり、話題づくりを検討することが必要です。

3. 来訪者を受け入れる環境づくりがあまり進んでいません

- ◇中城村には団体客が宿泊できる施設がなく、民泊も修学旅行を対象とした取り組みであること、受け入れ家庭の伸び悩みなど、滞在型観光の受入体制は整っていません。土地利用の規制等による宿泊施設整備に関する問題、多くの来訪者があ

る中城公園の整備の遅れなど、外的要因もありますが、できることから1つずつ解決していくことが必要です。

- ◇また、沖縄県が推進するクルーズ船受け入れ、MICE、スポーツツーリズムなどによる、外国人観光客や多様な国内観光客に対応する観光案内板整備やインバウンド対策も遅れており、これらへの対応が課題となっています。

《課題解決の視点》 『来訪者の目線に立った受入体制の構築』

- ◇立ち寄ってみたいと思わせる魅力づくりを行うとともに、民泊の受け入れ家庭の拡充や宿泊施設整備の可能性検討など、滞在につながる体制づくりを検討していくことも必要です。
- ◇外国人観光客をターゲットにした案内や情報発信、ニーズ把握を積極的に行い、インバウンドニーズに対応した受入体制づくりを進めることも必要です。

4. 来訪者数は増えましたが、今後は新たな展開に進む必要があります

- ◇中城村の来訪者数は増加しましたが、中城城跡に偏っているため、次の展開として来訪者を地域に呼び込む取り組みを進める必要があります。
- ◇これまでの観光振興では、村民が主体的に観光振興に取り組むことがあまりありませんでした。しかし、アンケートによると、多くの村民が観光振興の取り組みが重要だと考えており、身近な環境美化などの取り組みで協力も可能だと考えていることから、行政と村民の協働による観光振興の展開の可能性が見えてきています。

《課題解決の視点》 『中城村の観光を牽引する組織、人の育成』

- ◇中城村の観光振興はこれからがスタートといえ、強く推し進めていくためには観光協会など専門的な組織の設立が必要です。
- ◇また、村が一体となって来訪者をもてなすためには、村自体を魅せる観光に対して村民全体で意識を醸成していくことが重要です。

《課題解決の視点》 『訪れてよし、住んでよしの地域づくり』

- ◇来訪者が中城村の観光に望むものは、「今のたたずまいや雰囲気を活かした沖縄らしい村」や「今ある自然景観やまちなみ景観が保全された村」であり、「のんびり」、「沖縄らしさ」、「今の自然やまちなみ、ふれあい」などをキーワードとした生活感が漂うおもてなしやまちなみであることがアンケートより伺えます。
- ◇中城村は、先人より引き継いできた環境の中に「のんびり」、「沖縄らしさ」、「今の自然やまちなみ、ふれあい」などの要素を備えていることから、この地域資源を活かしながら、訪れてよしの村であるとともに、自分たちが住んで気持ちのよい村づくりという視点を持って、まちづくりに取り組むことが必要です。

第3章 中城村観光振興計画の基本的な方向性

1. これからの中城村の観光(目標像(案))

“自分たちが楽しむ地域づくりで、来訪した観光客に元気を与えます”

観光のニーズが現地の「日常」とふれあうことにあることから、地域づくりがキーワードになります。まずは、自分たちの地域の魅力に気づき、楽しんで元気な地域づくりに取り組みます。元気で楽しいところに観光客はやってきます。訪れた観光客に元気や楽しさを感じてもらいます。

- これまでの中城村の観光は、世界遺産中城城跡を核として、イベントの開催で付加価値をつけるなどの取り組みを主に行ってきました。このような取り組みによって、来訪者は増加し、中城村といえば中城城跡というイメージが形成されるなどの成果が得られています。
- 一方で、中城城跡からその他の地域資源への波及がほとんど見られず、“中城城跡だけ”になっていることが、観光客に“中城村の情報が少ない”、“中城村での楽しみ方がわからない”と感じさせる要因になっていると考えられます。
- 近年の観光は、現地の「日常」にニーズが移ってきています。その土地に住んでいる人が普段やっていることに興味を持ち、面白いと感じ、それを体験することが自分の日常に変化と豊かさをもたらすものとして捉えられています。
- 中城村でも、このような「日常」においてさまざまな所で楽しみや賑わいをつくり出し、その楽しみや賑わいに来訪者が気づき、興味を持って、行ってみたいと思うような地域づくりに取り組んでいくことが望まれます。
- 全国の市町村では、人口が減少し、自分たちが楽しいまちをつくるという取り組みに対して踏み出せない地域もあります。しかし、中城村は人口が増加傾向にあるとともに、琉球大学という若くて新しい視点を持った人たちもいるという強みを持っています。また、村民の8割は観光振興が重要であると考え、半数は地域の環境美化など何らかの形で観光振興への参加・協力が可能であると考えています。
- 中城村の観光振興は、これからが本格的に取り組む段階といえます。観光に関心のある村民がいるという点や観光客のニーズが現地の「日常」にあるという点など、今の中城村の段階、現状と観光客のニーズを踏まえると、まずは村民と行政が一体となって、さまざまな所で自分たちが楽しみ、賑わいのある地域づくりを推進することが、優先すべき取り組みだといえます。
- 自分たちが楽しむ地域づくりを続けていながら、次のステップとなる、交流人口を増やす取り組み(「知ってもらおう」、「来てもらおう」と観光産業の素地づくり(「ファンになってもらおう」)を推進します。

※約20年後の2040年には中城村でも人口は減少する予測です。行政と村民が参加し、自分たちが住んで楽しい地域づくりを進めていくのは、多様な人材のいる今から積極的に取り組んでいくことが望まれます。

【交流人口を増やす取り組みと観光産業の素地づくりのステップアップ】

- 自分たちが楽しむ地域づくりを基礎として、交流人口を増やす取り組みと観光産業の素地づくりを推進します。
- 中城村の強みを活かし、弱みを克服しながら来訪者のニーズに応えるため、まずは「知ってもらい」、次に興味をひいて「来てもらい」、さらに来訪者の期待を超えて「ファンになってもらう」ことに段階的に取り組んでいきます。
- 中城村を“知ってもらい”、“来てもらう”ことによる「交流人口の増加」は、すぐには収入の得られる観光産業にはなりません。しかし、時間をかけて素地づくりに取り組み、さまざまな中城村の姿を体験してファンになってもらうことで、裾野の広い経済的効果*をもたらすことにつながります。

※観光振興が地域に果たす役割は、大きく「社会・文化的効果」、「経済的効果」、「環境的効果」に分類されます。

- ◆ 『社会・文化的効果』としては、「観光客との交流」、「新規定住者の増加」、「地域イメージの向上」、「誇りと愛着の醸成」などが挙げられます。
- ◆ 『経済的効果』としては、観光客による消費支出が増加することによる「産業の活性化」、「地場産業の創出」、「雇用機会の増大」、「法人・個人所得の増大」などが挙げられます。
- ◆ 『環境的効果』としては、「自然環境の保全」、「歴史・文化資源の保全」などが挙げられます。

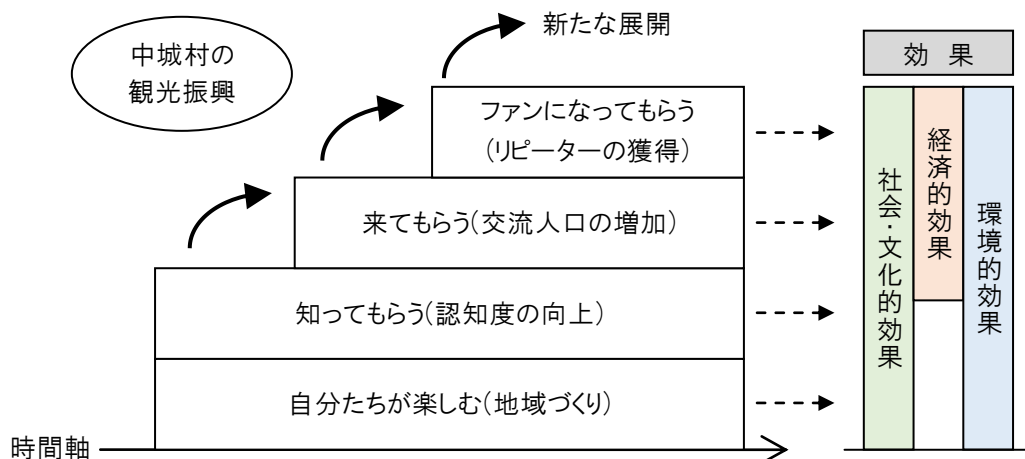
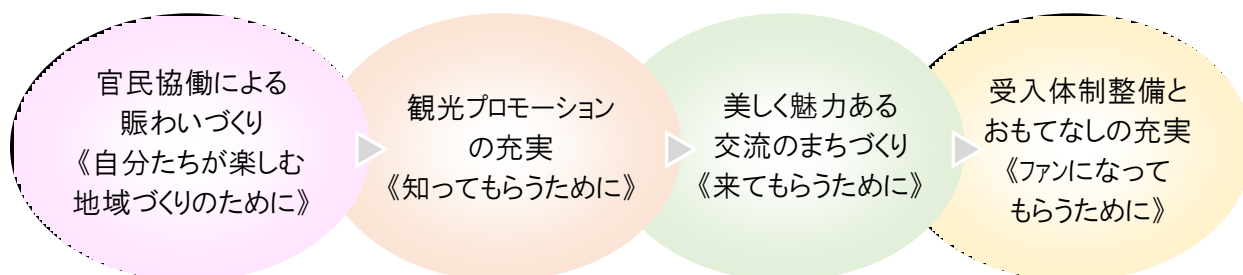


図 交流人口を増やす取り組みと観光産業の素地づくりのステップアップイメージ

2. 中城村の観光振興の基本方針・成果指標

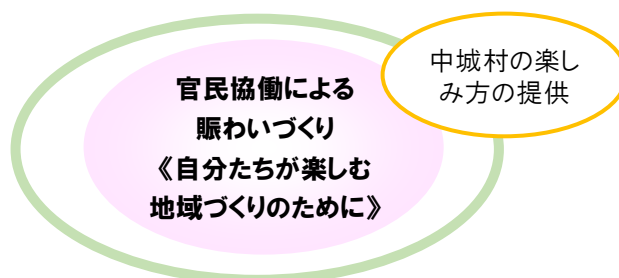
2.1 基本方針 ～“目標像(案)”の実現に向けた取り組むべき施策の方向性～

- 中城村の地域特性や観光の現状と課題を踏まえて、“目標像(案)”の実現に向けた4つの基本方針を以下のとおり設定します。



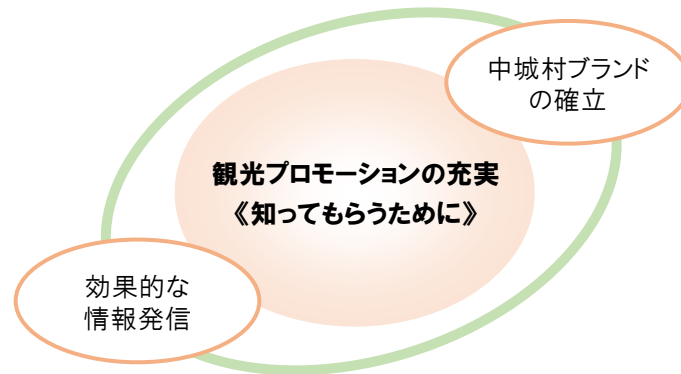
基本方針1 官民協働による賑わいづくり《自分たちが楽しむ地域づくりのために》

- ◆中城村が観光振興の取り組みによって、魅力ある観光地を形成するためには、中城村に住んでいる村民が、他の地域にはない自然風土、歴史・文化を持っていることを知り、愛着と誇りを持つことが大切です。そして、自分たちの地域を他の人に見てもらいたい、紹介したい、自慢したいという気持ちの高まりは、情報などの発信力の強さ、中城村の魅力向上につながります。
- ◆官民連携による新たな楽しみ方の提供や、まちなみ等の環境整備も進めて“中城村らしさ”をもって来訪者を迎え入れることで、中城村に来て感動したと思えるような観光まちづくりを進めます。



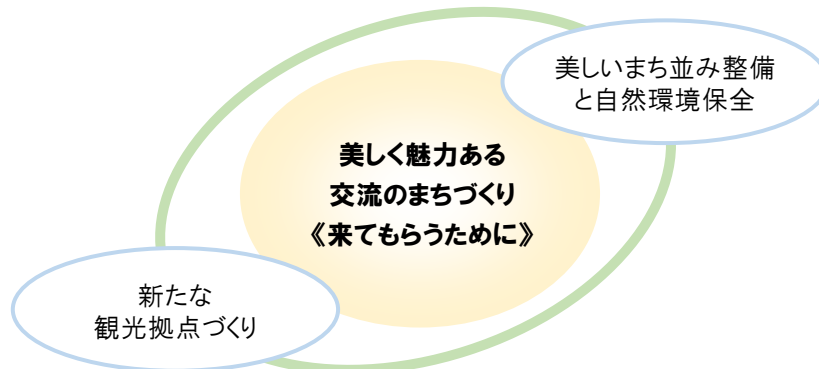
基本方針2 観光プロモーションの充実《知ってもらうために》

- ◆中城村ならではの地域資源として、「世界遺産中城城跡・護佐丸」、「東海岸一面の海」、「台地から眺める海や農地の壮大な景観」、「中城村産の食材」などがあります。これらの地域資源と“中城村”を結ぶイメージを形成し、多くの人が「中城村と言えば〇〇」と思い浮かべるような「中城村の統一したイメージ形成」に向けた取り組みを推進します。中城村の統一したイメージを形成することによって、認知度の向上を図り、来訪者が行ってみたいと思う村を目指します。
- ◆また、中城村のイメージを効果的に村外に発信していく取り組みを推進し、中城村を知ってもらい、中城村の魅力を知ってもらいます。



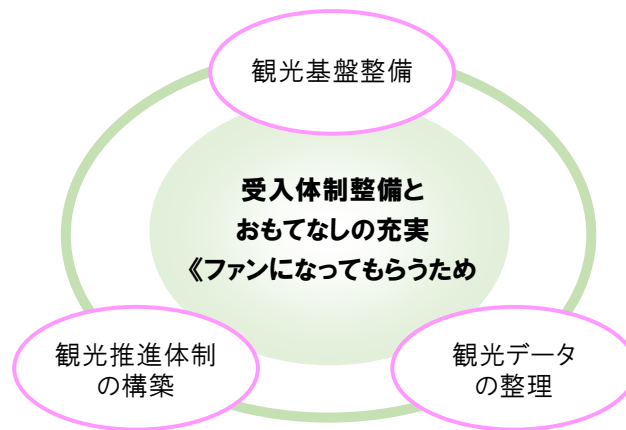
基本方針3 美しく魅力ある交流のまちづくり《来てもらうために》

- ◆中城村が持つ豊かな自然、農村風景、貴重な歴史・文化など、ありのままの地域資源を活かした観光振興に取り組んでいくとともに、村民の暮らしに係るまち並みや美しい景観づくりに取り組み、地域にとっても来訪者にとっても魅力ある村を目指します。
- ◆また、これまでの観光振興の取り組みを継続して磨き上げていくとともに、観光客のニーズを捉えて、中城村ならではの時間、空間、体験など新たな魅力を提供し、他との差別化によって興味を持ってもらい、来訪先として選ばれる取り組みを推進します。
- ◆知ってもらい、来てもらうことで交流人口の増加につなげます。



基本方針4 受入体制整備とおもてなしの充実《ファンになってもらうために》

- ◆ 来訪者が何度でも訪れたい村を目指し、近年急増する外国人観光客や高齢者や障がい者など、誰もが快適で安全に過ごせる観光基盤の整備に取り組みます。
- ◆ 村民が地域の誇りと愛着を持ち、今ある魅力をさらに磨いていきたい、中城村を来訪者に見てもらいたいと思う心の醸成に取り組みます。そして、中城村全体で来訪者を温かく迎え入れることで、“訪れてよかった”と思う満足度の向上につながる取り組みを推進します。
- ◆ ファンになってもらうための観光産業の素地づくりを推進します。



2.2 成果指標

- 本計画の基本方針を着実に推進するため、「自分たちが楽しむ地域づくり」、「知ってもらおう」、「来てもらおう」、「ファンになってもらおう」に直結する、「観光振興の取り組みへの村民の参加率」、「認知度の向上」、「来訪者数の増加」、「地域資源の利用者割合の向上」を成果指標とします。

①観光振興の取り組みへの村民の参加率

- 村民アンケートでは、「祭りやイベント等の運営スタッフやボランティア」への参加意向がある人が19.2%となっています。
- 来訪者と直接ふれあう機会のある「スタッフやボランティア」への参加率を想定し、まずは意向のある村民のうち約半分が参加する姿を目指します。

観光振興への取り組み参加率の向上
(中城村在住者)

(2017(平成29)年度) (2027(平成39)年度)
-% ⇨ 10.0%

※村民アンケートで把握

※村民アンケートより、観光客が訪れるようになったときに自分が協力できることとして、「日々の生活で自宅周りや地域環境の美化」が47.5%、「観光客に積極的に声をかけたり、道案内等」が40.3%、「祭りやイベント等の運営スタッフやボランティア」が19.2%となっています。

②認知度の向上

- 沖縄県に来訪したことがある県外在住者のうち、「中城村」を知っている人は24.6%*で4人に1人の割合となっています。これは、県内の市町村と比較しても高くはありません。
※観光客アンケート結果より
- 「中城村を知ってもらおう」取り組みを推進し、今後10年で認知度を約2倍に向上し、沖縄県に来訪したことがある県外在住者のうち2人に1人が知っている状況を目指します。

中城村の認知度の向上
(沖縄県に来訪したことがある県外在住者)

(2017(平成29)年度) (2027(平成39)年度)
24.6% ⇨ 50.0%
2倍増

※観光客アンケートで把握

③来訪者数の増加

- 中城村の来訪者数は、2016(平成28)年度時点で約14万5千人と推計されます。新たなイベント等を開催することで来訪者数は伸びていますが、近年は横ばい傾向となっています。
- 「中城村に来てもらう」取り組みを推進し、今後10年で来訪者数を約20%増加させていくことを目指します。

中城村の来訪者数の増加
(主な観光施設やイベントの来場者数)

(2017(平成29)年度) (2027(平成39)年度)
14万5千人 ⇨ 17万4千人
20%増

※各施設・イベントの来訪者数データで把握

※観光客アンケートより、中城村を知っている県外観光客の約8割は中城村を訪れています。このことから、認知度を約25%向上させながら、約20%の来訪者増を目指します(25%×0.8=20%)

※中城村第四次総合計画では、中城城跡の入場者数増加を数値目標としており、2015(平成27)年度から2021(平成33)年度の6年間で133,541人から150,000人へ約12%増加させていくことを目指しています。

④地域資源の利用者割合の向上

- 中城村の地域資源(観光施設、体験、食事、お土産)は、これらを利用した人の満足度は比較的高いものの利用者割合は半分程度*という状況です。

※観光客アンケート結果より

- 「中城村のファンになってもらう」取り組みを推進し、今後10年で中城村の地域資源の利用者割合を約20%増加させていくことを目指します。

(2017(平成29)年度) (2027(平成39)年度)

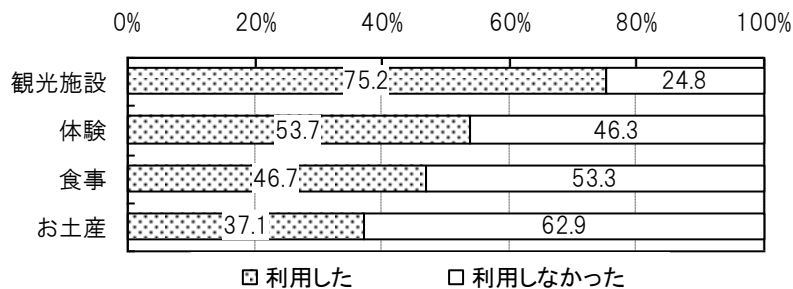
**村の地域資源の
利用者割合の向上**
(県外観光客
(中城村来訪経験者))

観光施設	75.2%	⇨	90%
体験	53.7%	⇨	65%
食事	46.7%	⇨	55%
お土産	37.1%	⇨	45%

約20%増

※観光客アンケートで把握

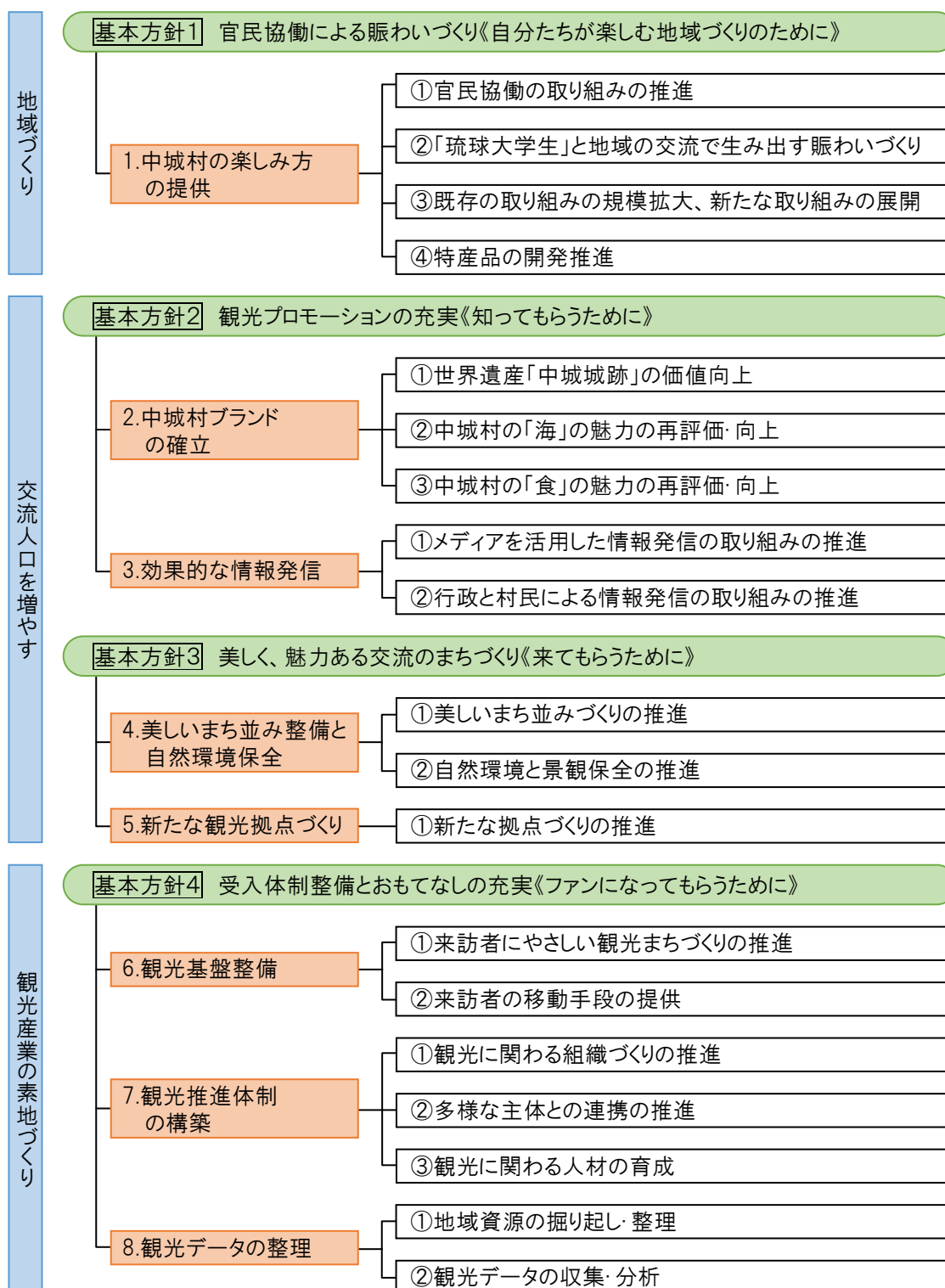
【中城村における「観光施設」、「体験」、「食事」、「お土産」の利用者割合】
(観光客アンケート(県外観光客で中城村来訪経験者)より)



3. 観光振興に向けた基本施策と展開

3.1 基本施策の体系

■基本方針を具体化するため、下記の体系で基本施策を展開し、中城村の観光振興を推進します。



3.2 基本施策の展開

基本方針1 官民協働による賑わいづくり

1. 中城村の楽しみ方の提供

- 既存の取り組みを守りながら、新しいコトに取り組むことで、中城村で楽しめるコト、モノの幅を広げます。
- これらの取り組みへの村民参画を促進し、自分たちが楽しみ地域の賑わいづくりをするという視点での取り組みを支援します。

【施策の展開】

①官民協働の取り組みの推進

- ◆官民協働による新たな取り組み、賑わいづくりは、観光客が中城村に来訪する新たなきっかけになるとともに、継続した取り組みとなることが期待されます。村民参画を基本とした無理なく継続していける取り組みの開発、観光関連事業者や村民からの取り組みの提案に対する支援などを行います。
- ◆農業と観光が連携したグリーンツーリズムに取り組むとともに、主体となる農家の観光振興に対する意識の醸成を図る取り組みを推進します。

②「琉球大学生」と地域の交流で生み出す賑わいづくり

- ◆琉球大学のある村として、琉大生との連携による観光まちづくりの取り組みを推進します。卒業後、県外に就職する学生や帰国する留学生が中城村のPR大使となるよう、在籍中の中城村での体験などへの支援を行います。
- ◆琉球大学生を地域のシンクタンクと位置付けるなどによって、村民との交流を促進し、それぞれの地域で観光まちづくりが自主的に進むような取り組みを支援します。

③既存の取り組みの規模拡大、新たな取り組みの展開

- ◆既存のイベントやまつりを継続して開催していくとともに、現状の問題点の把握や解決策を検討し、規模拡大に向けた取り組みを推進します。
- ◆また、周辺市町村で進められているMICE、モノレール延伸やクルーズ船受け入れなどのチャンスを活用した中城村への誘客に向けて、新たな取り組みを推進します。

④特産品の開発推進

- ◆中城村の強みである農畜産物を活用した特産品の開発や観光客のニーズを踏まえたお土産の開発を推進するとともに、観光関連事業者による特産品開発の取り組みを支援します。

基本方針2 観光プロモーションの充実

2. 中城村ブランドの確立

- 中城村の強みとなる地域資源の魅力を重点的に高めていき、“中城村ブランドの確立”を図ります。
- ブランド戦略の核となる地域資源として、「世界遺産“中城城跡”・護佐丸」、「中城村の“海”」、「中城村の“食”」、「“琉球大学生”」を位置づけ、「中城村と言えは“〇〇”」とイメージされる魅力向上に向けた取り組みを推進します。

【施策の展開】

①世界遺産「中城城跡」の価値向上

- ◆中城城跡は、村民が自慢に思う地域資源であるとともに、ほとんどの来村者が立ち寄る本村一の拠点施設であることから、ハンタ道や中城公園、その他周辺施設と連携した整備やコンテンツづくりを推進し、魅力と価値の向上を図り「中城と言えは“中城城跡”・護佐丸」の中城村ブランドをさらに強化します。
- ◆県営中城公園整備については、早期完了に向けて沖縄県との協議を進めます。

②中城村の「海」の魅力の再評価・向上

- ◆観光客を沖縄県に誘引する最大の要素は「沖縄の海」です。中城村の東海岸に広がるまだ知られていない海を活用し、アクティビティの充実、朝日とセットとなった海岸沿いでの食事の提供、利用者のニーズに合わせた施設の導入などにより、中城村の海の魅力を高め「中城と言えは“海”」の中城ブランド確立につなげます。
- ◆海の清掃活動は来訪者に感動してもらうための取り組みであるとともに、村民が住んで自慢と思える環境作りであることから、官民協働での取り組みを推進します。

③中城村の「食」の魅力の再評価・向上

- ◆「食」は来訪者にとって大きな魅力となっていることから、中城村産の農・水産物を活かして、中城村に来たから食べられる付加価値の高い「食」の提供に取組み、「中城と言えは“食”」の中城ブランド確立につなげます。
- ◆中城村の強みである農業、食材を活かして、「ガストロノミーツーリズム」を推進します。

※ガストロノミーツーリズムとは、欧米で普及し世界中で注目されている旅のスタイルです。その地域を歩きながらその地域ならではの食を楽しみ歴史文化を知る旅のことを言います。

3. 効果的な情報発信

- 県内外に向けたメディア戦略など、多様な方法で中城村のイメージを発信し、来訪者に中城村自体や中城村の地域資源の魅力を知ってもらう取り組みを推進します。

【施策の展開】

①メディアを活用した情報発信の取り組みの推進

- ◆ 「世界遺産“中城城跡”」、「中城村の“海”」、「中城村の“食”」、「“琉球大学生”」のイメージや旬の食材や祭りなどの情報をメディア等を通じて県内外に発信し、「中城村に行ってみたい」という意欲を喚起します。

②行政と村民による情報発信の取り組みの推進

- ◆ 情報技術の発達により、個人が世界に向けてリアルタイムで情報を発信できる時代になっています。ホームページの訪問者を増やす取り組みとともに、来訪者個人が中城村の楽しさを発信したくなるような、興味をひく体験等の場づくりや情報提供を推進します。

基本方針3 美しく、魅力ある交流のまちづくり

4. 美しいまち並み整備と自然環境保全

- 中城村の豊かな自然と美しい景観の保全・創出に取り組み、雰囲気あるまち並みや環境を整備することで、村民にとっても来訪者にとっても魅力あるまちづくりを推進します。

【施策の展開】

①美しいまち並みづくりの推進

- ◆観光地は、来訪者にとっては非日常的な土地ですが、村民によっては大切な日常生活の場です。中城村の来訪者と村民の双方にとって魅力的な村を実現するために「住んでよし、訪れてよし」の考え方にに基づき、双方の立場に配慮したハードとソフト面から美しいまち並みづくりを推進します。

②自然環境と景観保全の推進

- ◆自然環境と景観は、これまでの歴史や暮らしの中で生まれ守られてきた地域特有の資源であり、来訪者をもてなす基盤となるものです。中城村の海や緑、二次的自然の農地などの地域資源を保全するとともに、その魅力を県内外に発信する取り組みを推進します。

5. 新たな観光拠点づくり

- 都市計画との連携を図りながら、観光に係る新たな施設や拠点づくりを推進します。

①新たな拠点づくりの推進

- ◆都市計画との整合を図りながら、沿岸部のまちづくりやスポーツ施設の整備など、村民も利用でき来訪者にとっても楽しめる、観光に係る新たな施設や拠点づくりを推進します。
- ◆宿泊施設については、現状では土地利用の規制により導入が困難ですが、規制緩和の情報収集、現状で可能な取り組みの検討などにより、導入の可能性を検討していきます。

基本方針4 受入体制整備とおもてなしの充実

6. 観光基盤整備

- 来訪者が何度も訪れたいくなる村を目指し、観光案内機能の充実や外国人観光客に対応した整備など、来訪者の満足度向上につながる受入環境の整備を推進します。

【施策の展開】

① 来訪者にやさしい観光まちづくりの推進

- ◆ 外国人観光客がわかる案内板の整備やユニバーサルツーリズム(バリアフリー、多目的トイレ等)の推進など、来訪者の目線で必要な観光機能を整備し、さまざまな来訪者に対応した快適に過ごせるまちづくりを推進します。

② 来訪者の移動手段の提供

- ◆ 西原 I C や沖縄モノレールでだこ浦西駅を起点とする交通手段導入の取り組みや村内での移動手段の選択肢を増やす取り組みを推進し、村内の地域資源間の連携につなげます。

7. 観光推進体制の構築

- 中城村の観光振興の中心となる機動力のある組織づくりを推進するとともに、来訪者と直接ふれあう村民を育て、中城村を誇りに思う心を育むことで、来訪者の期待を超えるおもてなしの実現を目指します。

【施策の展開】

① 観光に関わる組織づくりの推進

- ◆ 中城村の観光振興を担う組織を設立し、観光関連事業者との連携を図りながら、将来的には自主財源を確保しながら戦略的に観光振興に取り組む体制づくりを推進します。

② 多様な主体との連携の推進

- ◆ 周辺市町村のもつ地域資源と連携した取り組みを推進することで、他地域を訪れた観光客の誘致につなげます。
- ◆ 中城城跡は、北中城村との共同管理であることから連携を密にし、中城城跡の価値を高める取り組みを推進します。
- ◆ 琉球大学生と連携した観光まちづくりを推進します。

③ 観光に関わる人材の育成

- ◆ 観光関連事業者とともに、村民一人一人が来訪者を迎え入れる主体となります。来訪者が接した人の印象が村の印象にもつながり、満足度の向上、中城村ファ

ンの獲得、中城村のイメージアップにもつながります。村全体で来訪者を快く迎え入れるおもてなしの精神の醸成を図ります。

- ◆グスクの会をはじめとする、現在観光振興に携わっている人材から、次の世代に引き継ぐための人材育成を推進します。

8. 観光データの整理

- 中城村の観光の基礎となる地域資源の掘り起こしを村民と連携して行い、データベースとして蓄積し情報の充実を図ります。また、観光振興の基礎となる観光統計データの継続的な収集、整理を進めるとともに、これらのデータを分析し、戦略的な情報発信、商品開発の造成につながる取り組みを推進します。

【施策の展開】

①地域資源を掘り起し・整理

- ◆村民連携による中城村の地域資源発掘を行い、これらの地域資源の魅力を再認識し、保全を図りながら活用するとともに、情報発信していきます。

②観光データを収集・分析

- ◆これまでの観光データは、一部の観光施設やイベントの入場者数の把握にとどまっていた。今後は、可能な限り広く来訪者に関するデータを収集するとともに、来訪者の満足度を把握するデータについても収集し、観光まちづくりに活用します。

【お問い合わせ】

中城村役場 企業立地・観光推進課

〒901-2493 中城村字当間176番地

Tel : 098-895-2131、Fax : 098-895-3048

E-mail : kigyounakagusuku@vill.nakagusuku.lg.jp